

# 東レグループの成長戦略

2023年10月

東レ株式会社

## トレビーン®



アンダーシンク型 高除去タイプ

トレビーン® ブランチ

## 東レ素材が使用されている自動車部品の例



xEVインバーター  
xEVコンデンサ



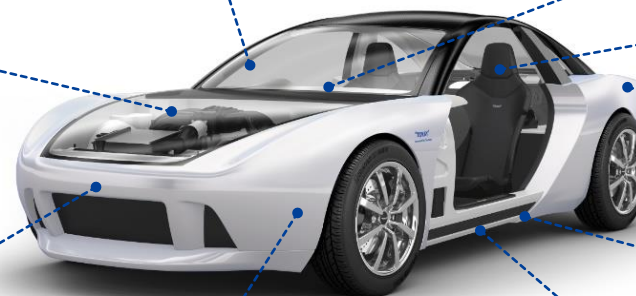
エアバッグ



タッチパネル



カーシート



水素タンク



ミリ波レーダー



モーター



コネクタ




xEVバッテリー


# — 身の周りにおける“東レ”



東レ パンパシフィックオープンテニス  
本戦：9/25(月)～10/1(日)

## アイコンのご説明

 をクリックいただくと、関連するホームページに遷移します

 をクリックいただくと、関連する動画を視聴いただけます



青空サライソ教室



2023年5月  
サニブラウン・アブデル・ハキーム選手と4年間の  
グローバルパートナーシップ契約を締結



2023年 東レ キャンペーンガール  
間瀬遥花さん



東レアローズ



1. 東レグループの概要 .....	5
2. セグメント紹介 .....	11
3. 成長戦略 中期経営課題“プロジェクト AP-G 2025” .....	29
4. サステナビリティへの取り組み .....	35
5. 業績 .....	48
6. 終わりに .....	51
7. 参考情報 .....	53

1

# 東レグループの概要

# 会社概要

会社名:	東レ株式会社
設立:	1926年1月
資本金:	1,479億円
売上収益:	2兆 4,893億円 (2022年度)
関係会社数:	310社 (国内 114社、海外196社)
従業員数:	東レ 6,992人
	国内関係会社 10,420人
	海外関係会社 31,270人
	計 48,682人
	(2023年3月末現在)



代表取締役社長  
大矢 光雄

## 企業理念

わたしたちは新しい価値の創造を通じて社会に貢献します

## 経営基本方針

お客様のために

新しい価値と高い品質の製品とサービスを

社員のために

働きがいと公正な機会を

株主のために

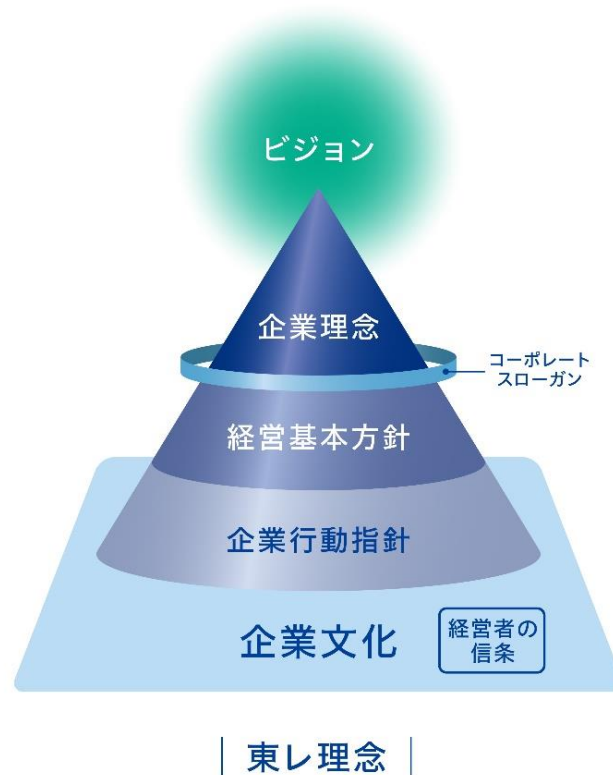
誠実で信頼に応える経営を

社会のために

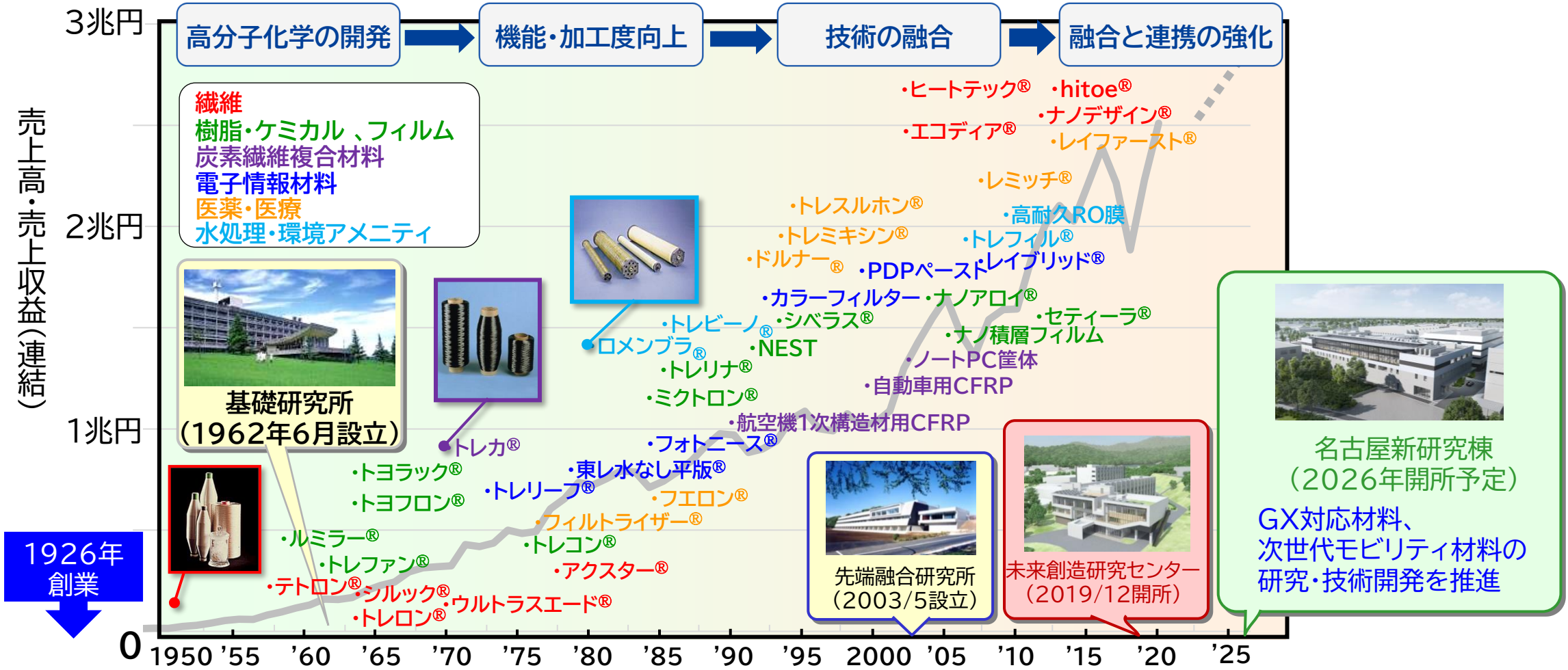
社会の一員として責任を果たし相互信頼と連携を

## ビジョン

東レグループ サステナビリティ・ビジョン



# 東レグループの事業変遷



レミッチ®は鳥居薬品株式会社の登録商標です。

ヒートテック®は株式会社ファーストリテイリングの登録商標です。



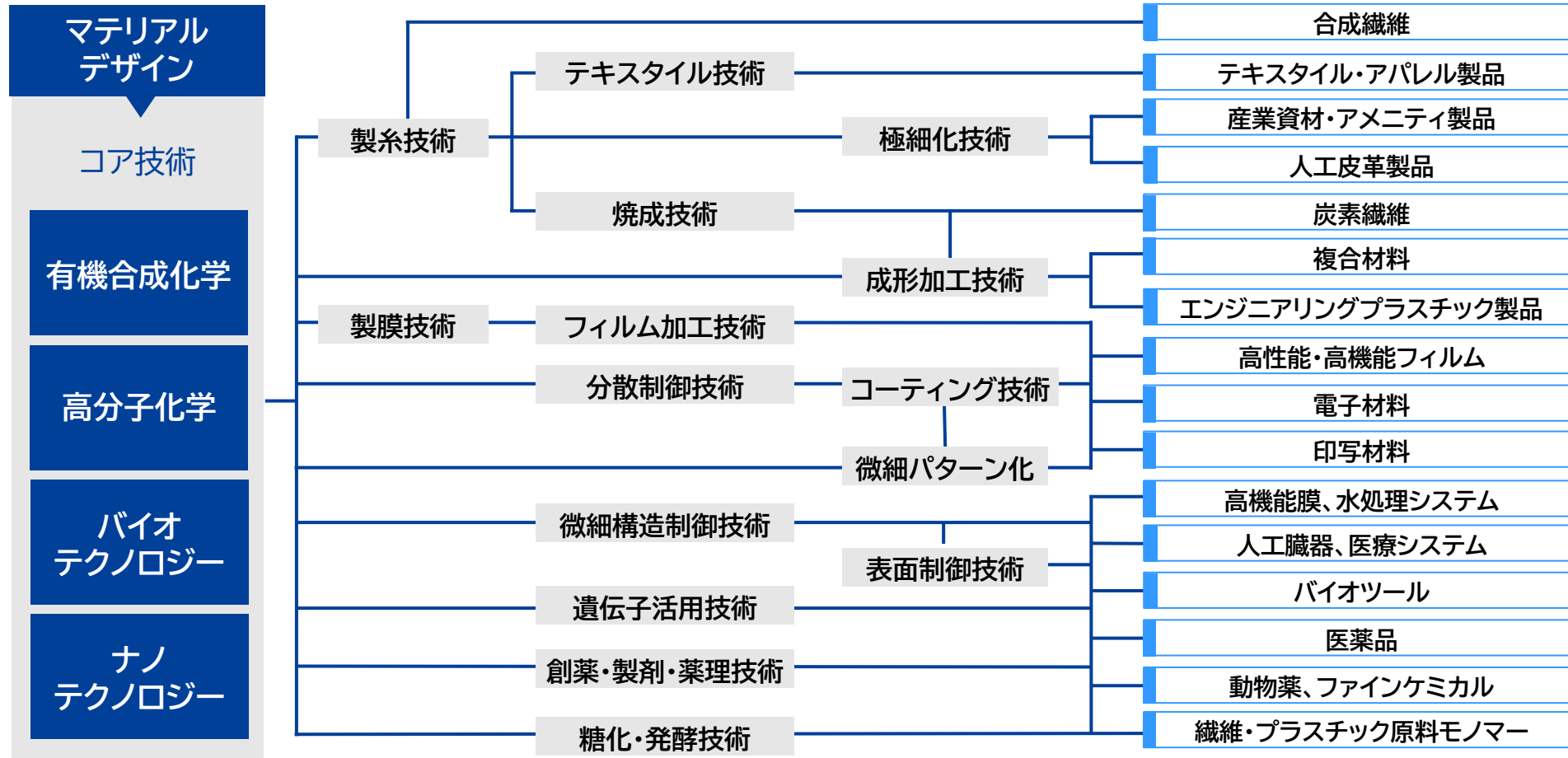
# セグメント別売上収益・事業利益

(億円)

セグメント	主な製品	2022年度 連結売上収益		2022年度 連結事業利益
			構成比率	
 繊維		9,992	40%	512
 機能化成品		9,094	37%	304
 炭素繊維複合材料		2,817	11%	159
 環境・エンジニアリング		2,288	9%	197
 ライフサイエンス		538	2%	2
その他		164		25
調整額		-		▲239
<b>合計</b>		<b>24,893</b>		<b>960</b>

# 東レグループの技術体系と製品群

創業以来培ってきた、有機合成化学、高分子化学、バイオテクノロジーというコア技術に近年ナノテクノロジーを加え、基礎素材から加工製品まで幅広い事業を展開



2

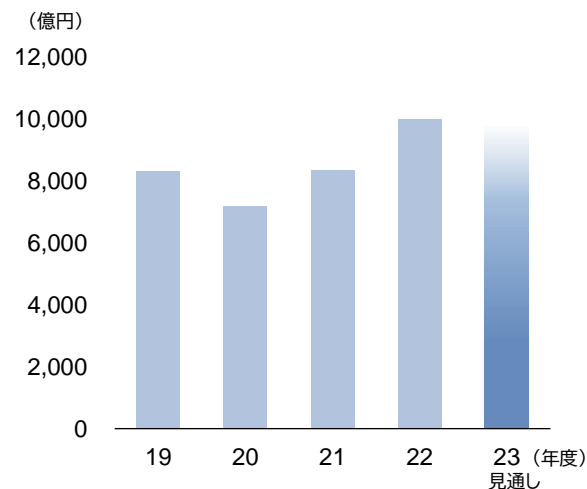
# セグメント紹介

# 繊維セグメント

## 2022年度売上収益



## 売上収益推移



## 主な製品・事業



- ・ナイロン繊維
- ・ポリエステル繊維
- ・アクリル繊維



テキスタイル



縫製品

- ・3大合成繊維(ナイロン、ポリエステル、アクリル)すべてを展開
- ・糸だけでなく、テキスタイル、縫製品までのサプライチェーン一貫型事業を展開
- ・エアバッグ用基布事業や不織布事業など産業用途にも展開
- ・中国・東南アジア等におけるグローバルオペレーションを確立



エアバッグ用原糸・基布



人工皮革



衛生材料用不織布

# ファイバー・テキスタイル・縫製品一貫型事業(衣料用繊維)

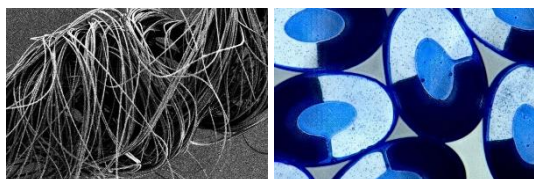
最終顧客のニーズに基づき、グローバルなバリューチェーンを構築するとともに、技術開発力と多彩な素材群で差別化モデルを追求

## 東レグループの一貫型供給バリューチェーン



## 東レの技術・ブランド例

### NANODESIGN®



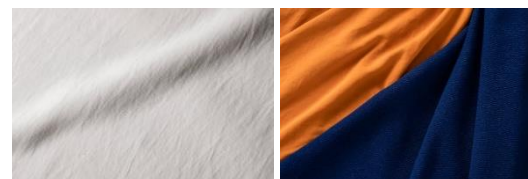
ポリマーを精密に組み合わせることで、ナノスケールで「形状」「精密さ」「多様性」をコントロールした今までにない繊維をつくりだすことが可能に

### Kinari®



天然絹のような上質な光沢、艶感、高高性、仕立てやすさを特長とする、新感覚のポリエステル長繊維テキスタイル

### Camifu®



和紙のようなぬもりがありながら、やわらかく、さらっとした心地のよい風合いと合成繊維ならではの機能性を両立したポリエステル長繊維テキスタイル

### Dermizax®



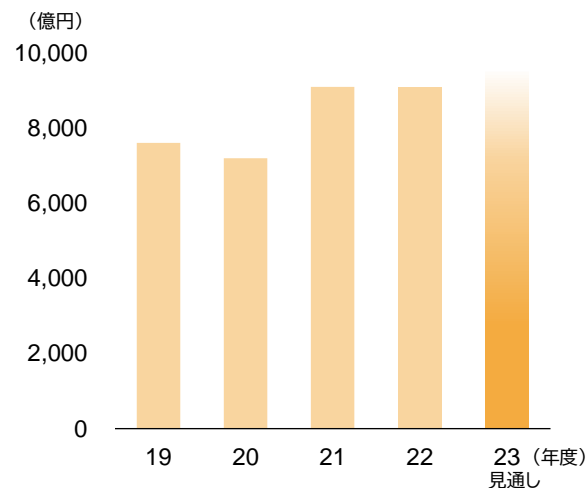
高機能膜により最高レベルの防水性、透湿性、低結露性を達成したラミネート素材。伸縮性があり、生地ストレッチ性を活かし、軽量でしなやかな風合いを実現

## 機能化成品セグメント

## 2022年度売上収益



## 売上収益推移

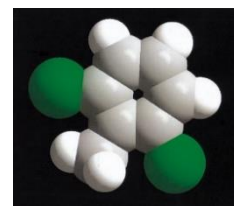


## 主な製品・事業

## 樹脂・ケミカル事業



- ABS樹脂
- ナイロン樹脂
- PBT樹脂
- PPS樹脂 等



- ケミカル製品
- 動物薬

## フィルム事業



- ポリエステルフィルム
- ポリプロピレンフィルム
- PPSフィルム
- アラミドフィルム 等

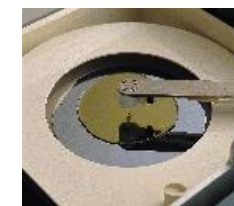


- リチウムイオン  
二次電池向け  
バッテリーセパレータ  
フィルム

## 電子情報材料事業



- 有機EL関連材料
- 回路材料



- 半導体関連材料

- 樹脂・ケミカル、フィルム、電子情報材料の各事業を展開
- 自動車向け樹脂、MLCC離型用PETフィルム、有機EL関連材料などの製品を含む

## 樹脂事業

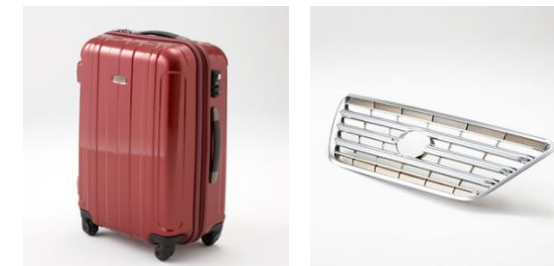
様々な用途に対応可能なラインナップやグローバルな事業展開を活かし、成長領域（次世代自動車、5G等）での事業拡大を推進

## 東レグループの強み

## 用途

## ABS樹脂

- 世界2拠点(日本・マレーシア)で生産
- 高機能な透明ABS樹脂世界シェアは約4割
- 透明、耐熱、耐薬品性等の機能を付与した高機能ABS樹脂市場の世界需要は年率5%\*で成長



家電、雑貨、自動車など

## エンジニアリングプラスチック

- ナイロン、PBT、PPS、LCP樹脂などの幅広いラインナップ
- 次世代自動車や、低誘電特性が必要な5Gなど、成長領域での事業拡大を推進
- ユーザー立地を基本に消費地で生産グローバルに生販技拠点を設置



自動車、電子部品など

\*当社推定

# フィルム事業

長年培ってきた技術力や、地産地消のグローバルな生産・供給体制を活かし、成長分野での高付加価値品拡大、新製品・新用途の開発・創出を目指す

## 東レグループの強み

## 用途

### PET (ポリエステル) フィルム

- 世界6極拠点、生産能力約40万t/年
- 情報通信、産業全般、包装材など幅広い用途に展開
- 市場の拡大が期待できるMLCC\*離型用フィルムにおいてシェア50%以上を有する



ディスプレイ、MLCC\*離型用途 など

### OPP (延伸ポリプロピレン) フィルム

- 高品質な薄膜フィルムを安定的に大量に生産



一般工業用途、xEVコンデンサ用途 など

\*積層セラミックコンデンサー



# 電子情報材料事業

東レグループの高度なコア技術を活かし、顧客ニーズに適した高付加価値品を創出  
先端材料・プロセスの提案を通じてソリューションを提供することにより事業拡大を推進

## 東レグループの強み

## 用途

### 有機EL関連材料

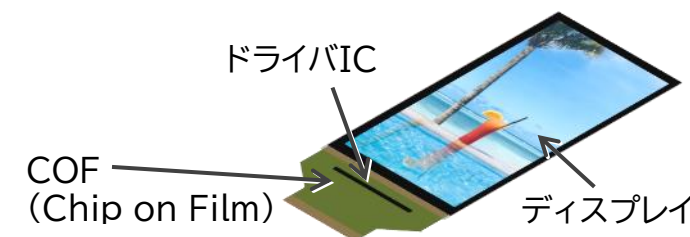
- 有機ELディスプレイ分野に各種先端材料を幅広く展開
- 絶縁層はデファクト・スタンダード
- 有機ELディスプレイの需要は、モバイル用途、テレビ用途ともに拡大する見通し



有機ELディスプレイにおける  
絶縁層、有機発光材料など

### フレキシブル回路基板 (COF)

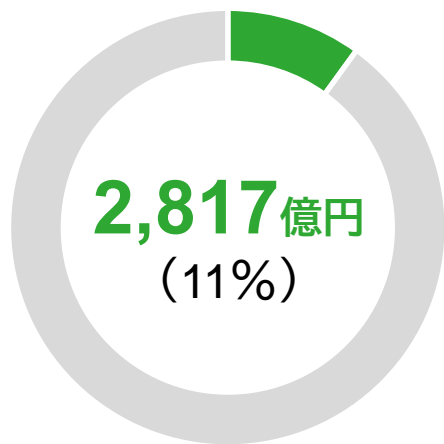
- 最先端の微細化技術、世界初の両面基板製品化など、最先端材料を提供
- グループ内で完結したサプライチェーン、各社の先端技術を強みにシェアを維持・拡大



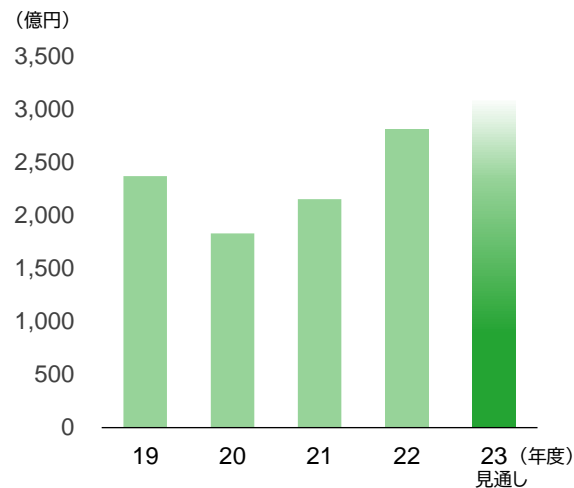
ディスプレイのドライバICなどを  
実装するフレキシブル回路基板

# 炭素繊維複合材料セグメント

## 2022年度売上収益



## 売上収益推移



- 航空機用途をはじめとした高品質炭素繊維に加え、コスト競争力のある産業用途向け炭素繊維も含め、トップメーカーとしての地位を確保
- 炭素繊維だけでなく、プリプレグ(炭素繊維に樹脂を含漬させたシート)や織物、成形品まで、サプライチェーンの各段階でグローバルに事業を展開
- 航空宇宙、スポーツ、一般産業各用途に展開

## 主な製品・事業



炭素繊維

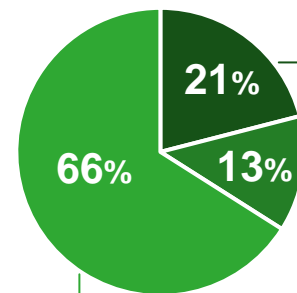


プリプレグ



成形品

## 2022年度売上収益(2,817億円)の内訳



### 航空宇宙用途

- 航空機
- 人工衛星
- ロケット



ボーイング787

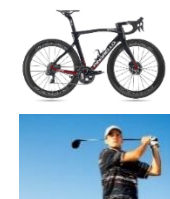
### 一般産業用途

- 風力発電翼
- パソコン筐体
- 燃料電池電極基材
- 圧力容器
- 自動車部材 など



### スポーツ用途

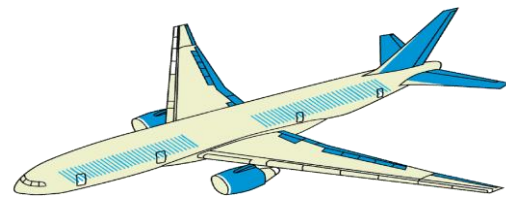
- 自転車
- ゴルフシャフト
- テニスラケット
- 釣り竿
- ホッケースティック



# 航空機向け炭素繊維複合材料

## 炭素繊維複合材料の適用拡大(ボーイング社の例)

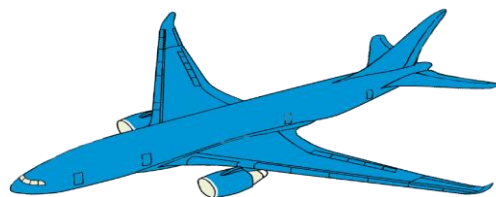
777型機



一次構造材として適用



787型機



構造材の複合材化進展

※青色箇所が炭素繊維複合材料適用部位

## 航空機での炭素繊維複合材料 採用の効果

- ① 耐腐食性向上 ⇒ 機内湿度向上
- ② 高強度 ⇒ 機内気圧向上
- ③ 最適空力設計 ⇒ 静粛性向上
- ④ 高強度 ⇒ 窓大型化
- ⑤ 軽量化 ⇒ 燃費向上

**GHG削減**

温室効果ガス



**CORSIA** (国際民間航空のためのカーボン・オフセット及び削減スキーム)

国際線を有する航空会社は、CO<sub>2</sub>排出量が基準を上回っている場合、その超過分に相当する排出枠を購入しなければならない

**CORSIA**



2027年～義務化開始

# 風力発電翼向け炭素繊維

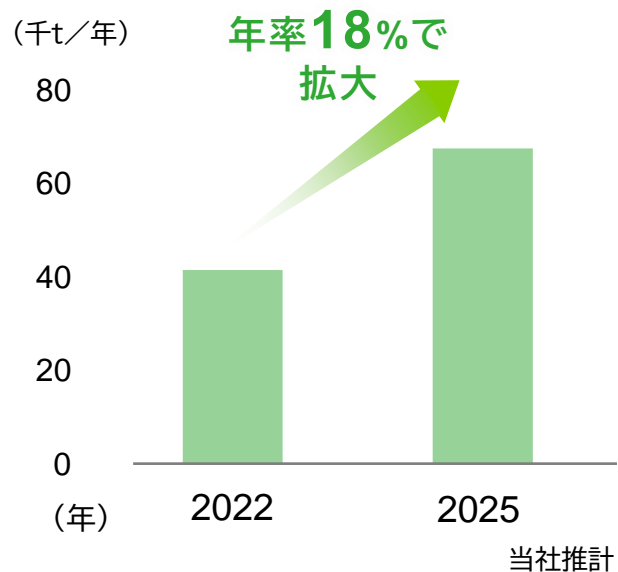
- 風力発電設備の成長に加え、立地の制約により設置場所が洋上および低風速地域へ拡大し、ブレードの大型化・炭素繊維比率の上昇が期待される
- 市場成長を取り込むため、Zoltek社のハンガリー、メキシコ拠点での風力発電翼用ラージトウ炭素繊維の継続的投資を実施し、事業拡大を目指す

## 風車の大型化

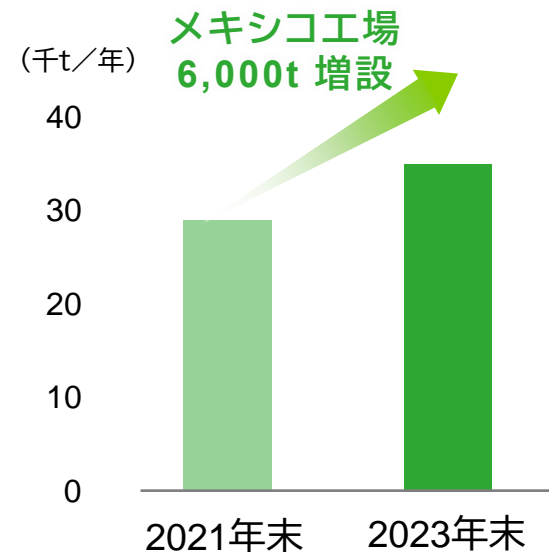
ブレードの長尺化により軽量・高剛性の要求が高まり炭素繊維への切り替えが加速



## 風力発電翼用炭素繊維の需要見通し



## Zoltek社生産能力

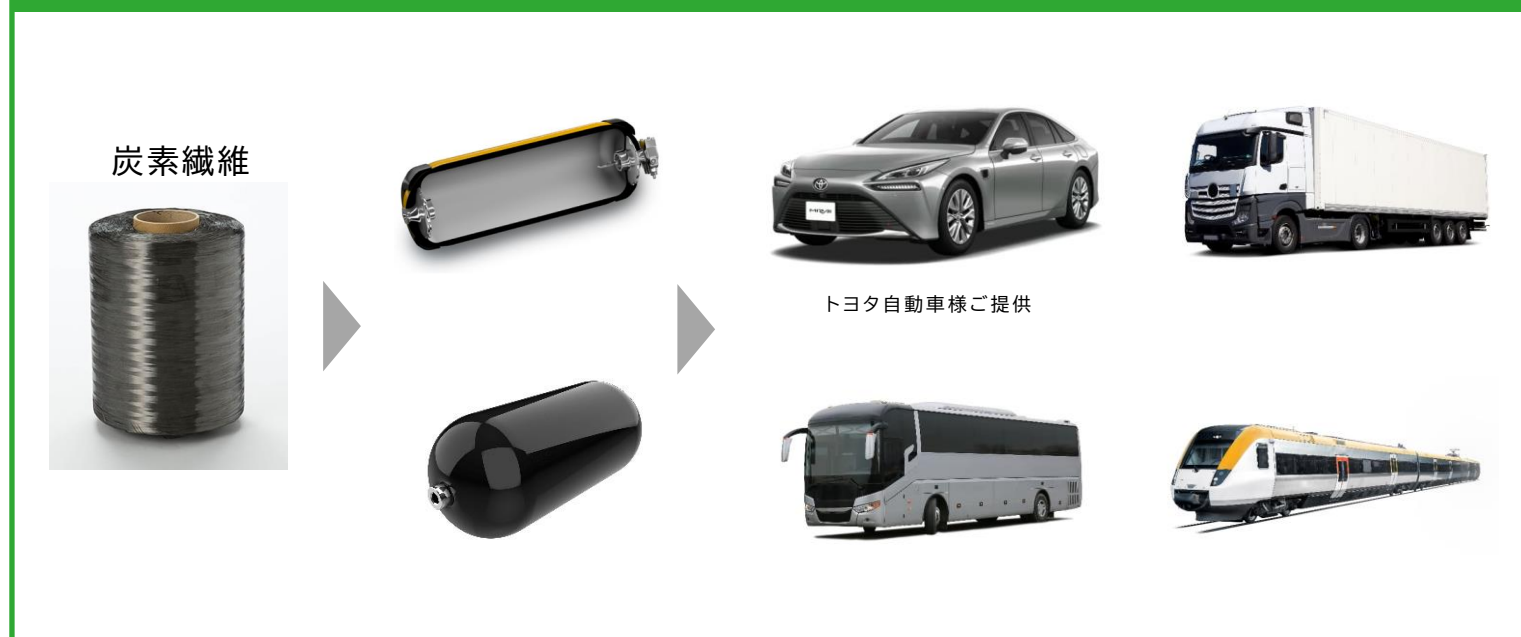


# — 圧力容器向け炭素繊維

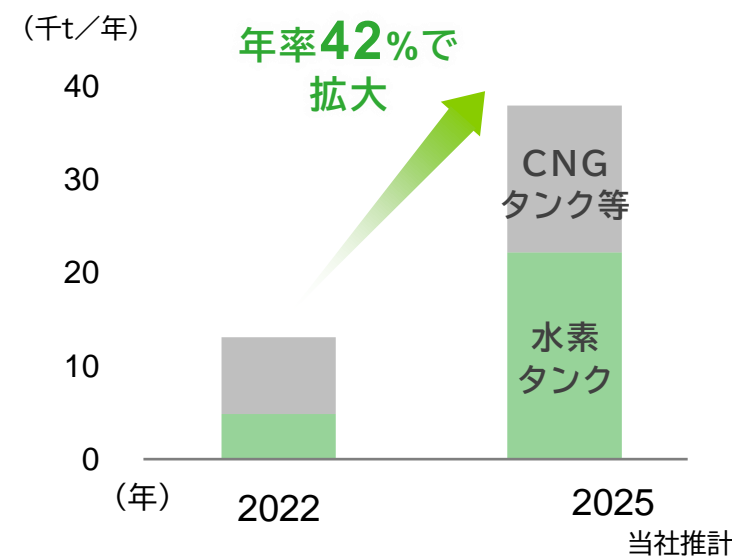
## CNGタンク、水素タンク用途で世界No.1シェアを維持

- 圧縮天然ガス(CNG)タンクは、宅配業務用CNG車両およびガス輸送タンクの需要が堅調に増加
- 水素タンクは、燃料電池を使用する乗用車、物流トラック、鉄道、船舶などへの採用が拡大

### 採用用途



### 圧力容器用炭素繊維の需要見通し



# 2026年以降に拡大が見込まれる主な用途

## 水素タンク

炭素繊維需要規模  
2030年に2025年比

4倍  
(90,000t)



©トヨタ自動車(株)

## 洋上風力発電

炭素繊維需要規模  
2030年に2025年比

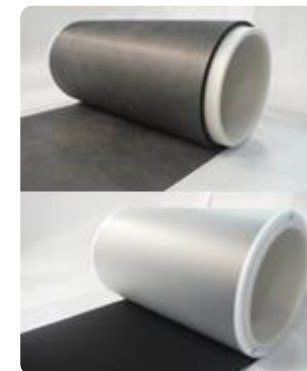
1.3倍  
(92,000t)



## ガス拡散層基材

炭素繊維需要規模  
2030年に2025年比

3.5倍  
(1,200t)



上：トレカ®カーボンペーパー  
下：ガス拡散層

## 空飛ぶクルマ(UAM)

炭素繊維需要規模  
2030年に2025年比

10倍  
(2,000t)



©Joby Aviation, Inc.

## 次世代航空機

炭素繊維需要規模  
2030年近傍に

3,000t



©The Boeing Company

## 宇宙(ロケット)

宇宙産業の市場規模<sup>(※)</sup>  
2040年に2025年比

2.3倍  
(1兆\$)



©JAXA

(注)炭素繊維需要規模は当社推定値

(※)モルガンスタンレー社予測に基づく  
<https://www.morganstanley.com/ideas/investing-in-space>

# — 空飛ぶクルマUAM（動画）

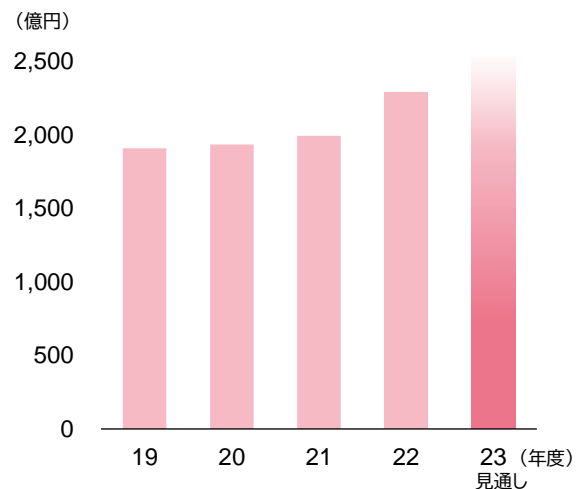


# 環境・エンジニアリングセグメント

## 2022年度売上収益



## 売上収益推移



## 主な製品・事業



水処理膜



水処理膜装置



プラント・  
エンジニアリング事業



エアフィルター



家庭用浄水器



建設・不動産事業

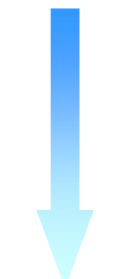
- 海水淡水化用逆浸透膜等、多くの水処理膜製品を保有
- プラント建設、産業機器・システム提供、上下水道施設の設計・施工・監理等エンジニアリング事業を展開
- 建設・不動産開発事業も展開



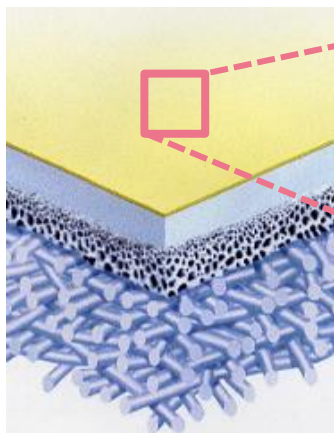
# 水処理膜の製品ラインナップ

分離機能層

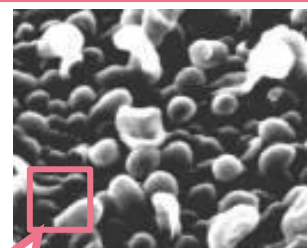
供給水  
(海水)



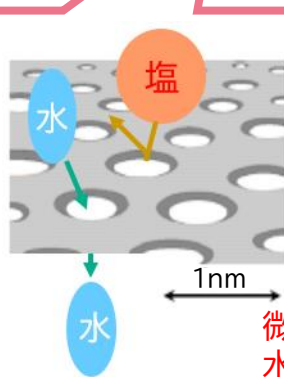
透過水



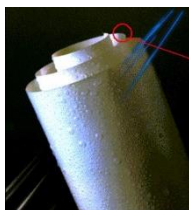
RO(逆浸透)膜



表面微細構造



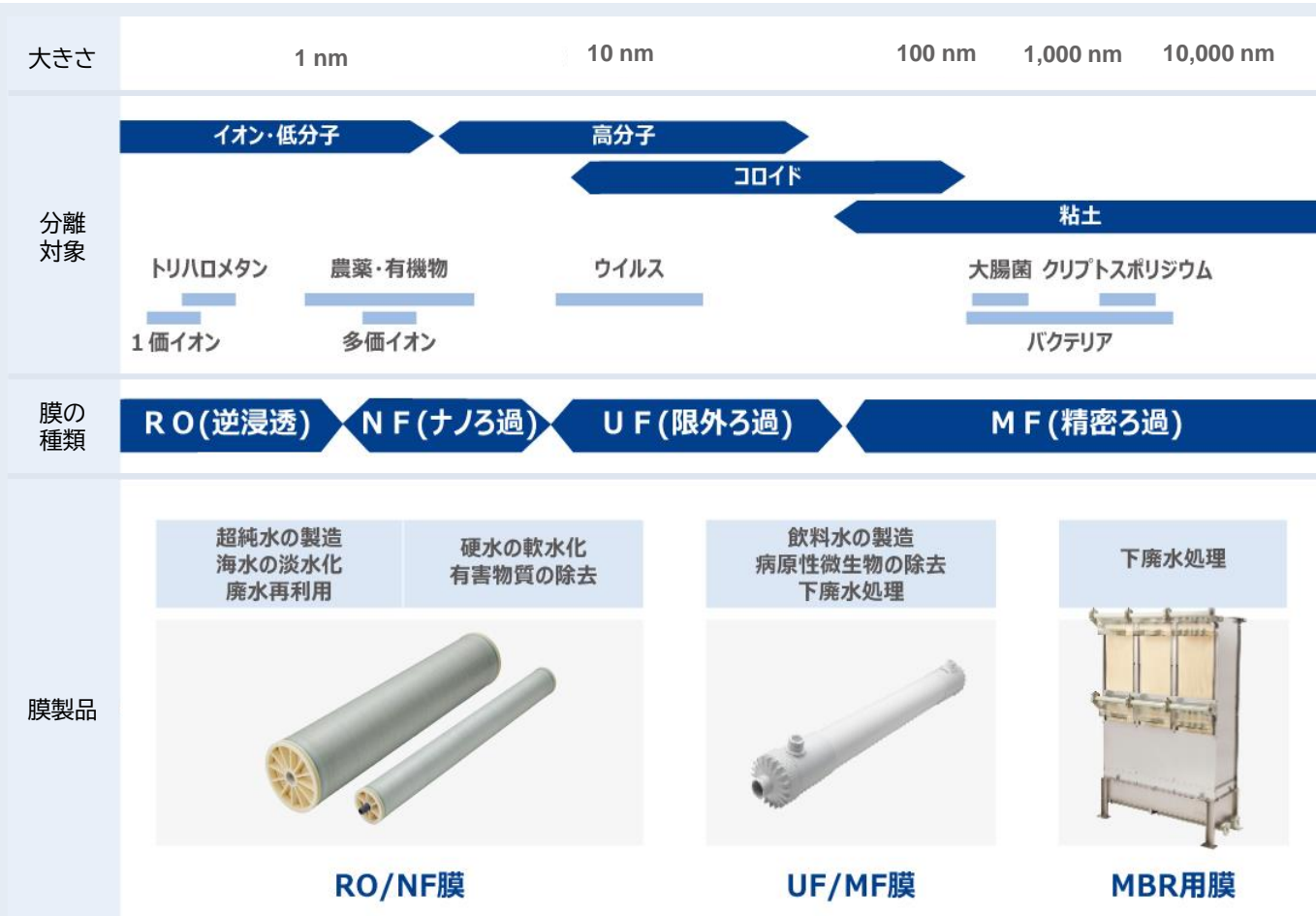
微細孔を利用し、  
水と塩を分離



RO膜シート

全てのレンジの膜製品を自社で研究開発 ⇒ 生産 ⇒ 販売 ⇒ 技術サービス

幅広い原水に対応



# 逆浸透(RO)膜

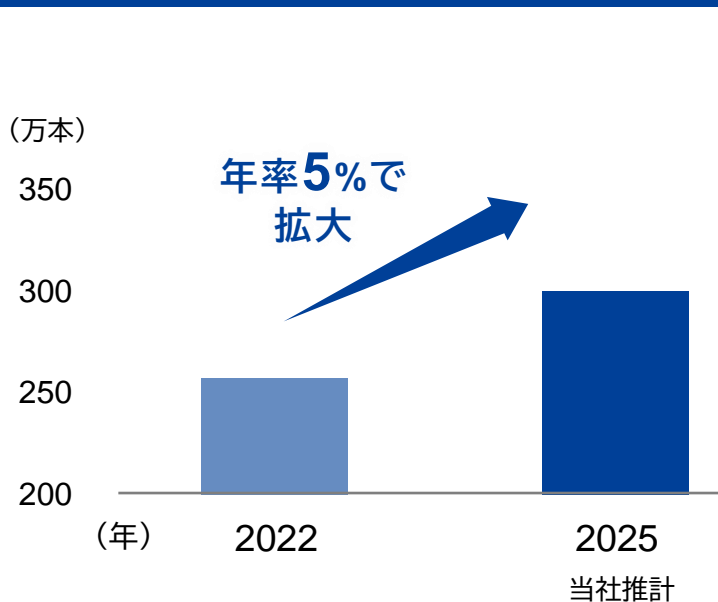
## 高性能な新製品のグローバル展開で世界シェアNo.1へ

- 中東、中国を中心に需要の拡大が続くRO膜事業で、需要増に即応した地産地消体制を構築
- グローバル生産・販売・技術サポート体制によるきめ細かいアフターサービスを継続強化
- 高性能な新製品開発とコストダウンの推進

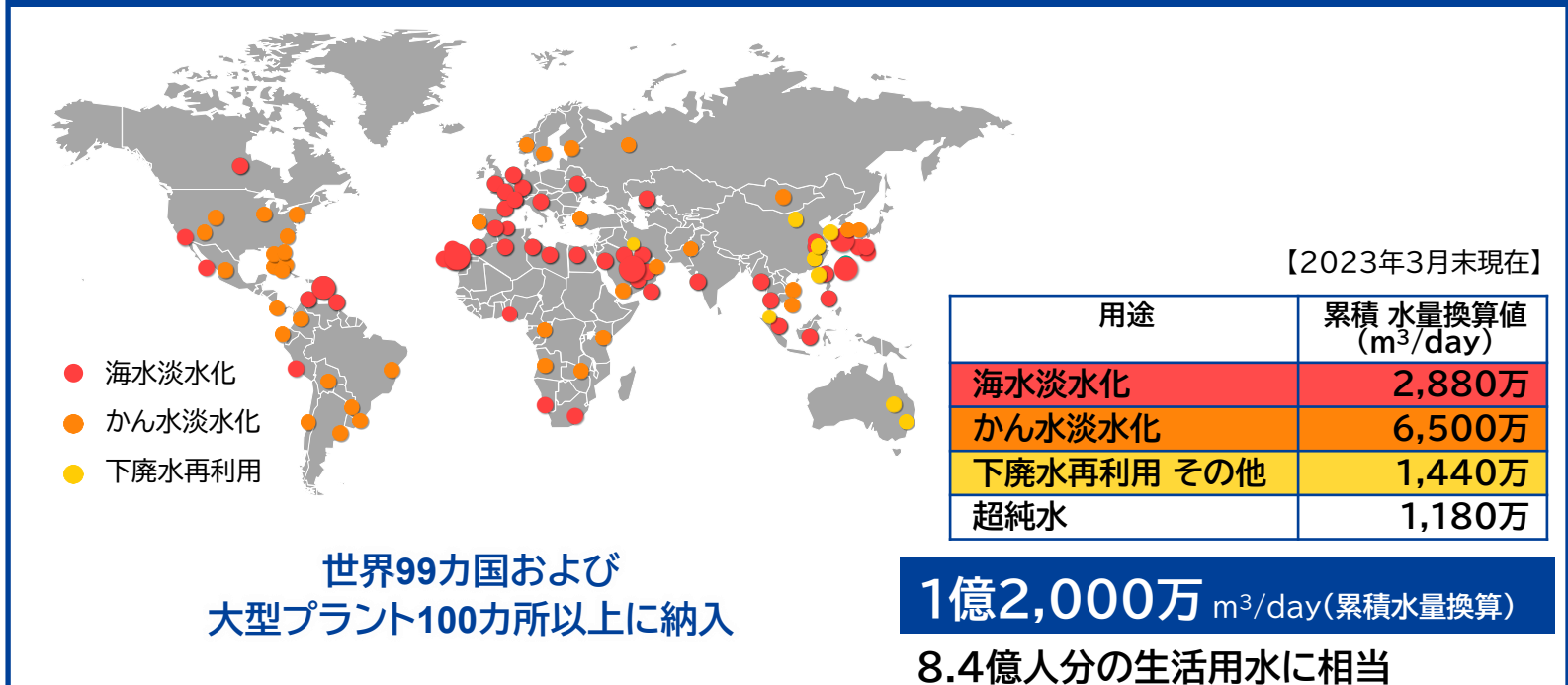


RO膜

### 産業用RO膜市場規模

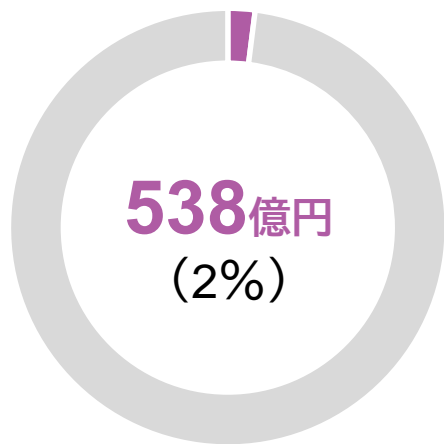


### 東レのRO膜事業のグローバル展開(2022年)

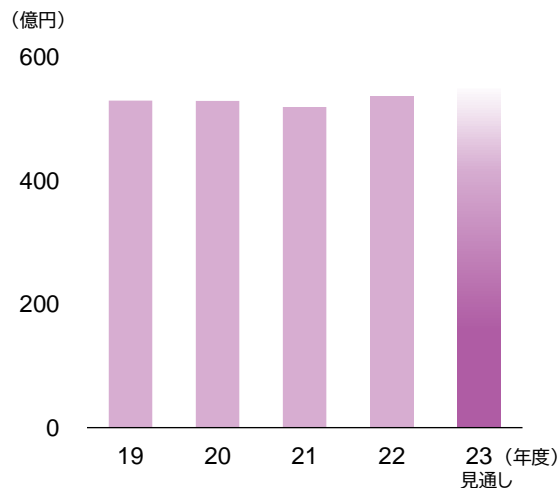


# ライフサイエンスセグメント

## 2022年度売上収益



## 売上収益推移



## 主な製品・事業

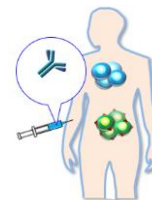
※点線枠内は事業化に向けて開発中

### 医薬事業



経口そう痒症改善薬  
レミッチ®\*

\*レミッチ®は鳥居薬品株式会社の登録商標です。



がん治療薬  
TRK-950  
(抗体医薬)

### 医療機器事業



中空糸型透析器  
トレライト®

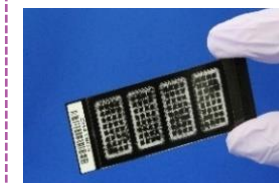


吸着式血液浄化用  
浄化機器  
トレミキシン®



不整脈治療用  
バルーンカテーテル  
アブレーションシステム  
HotBalloon™

### 新規事業



高感度DNAチップ  
3D-Gene®



アレルギー検査用  
バイオチップ

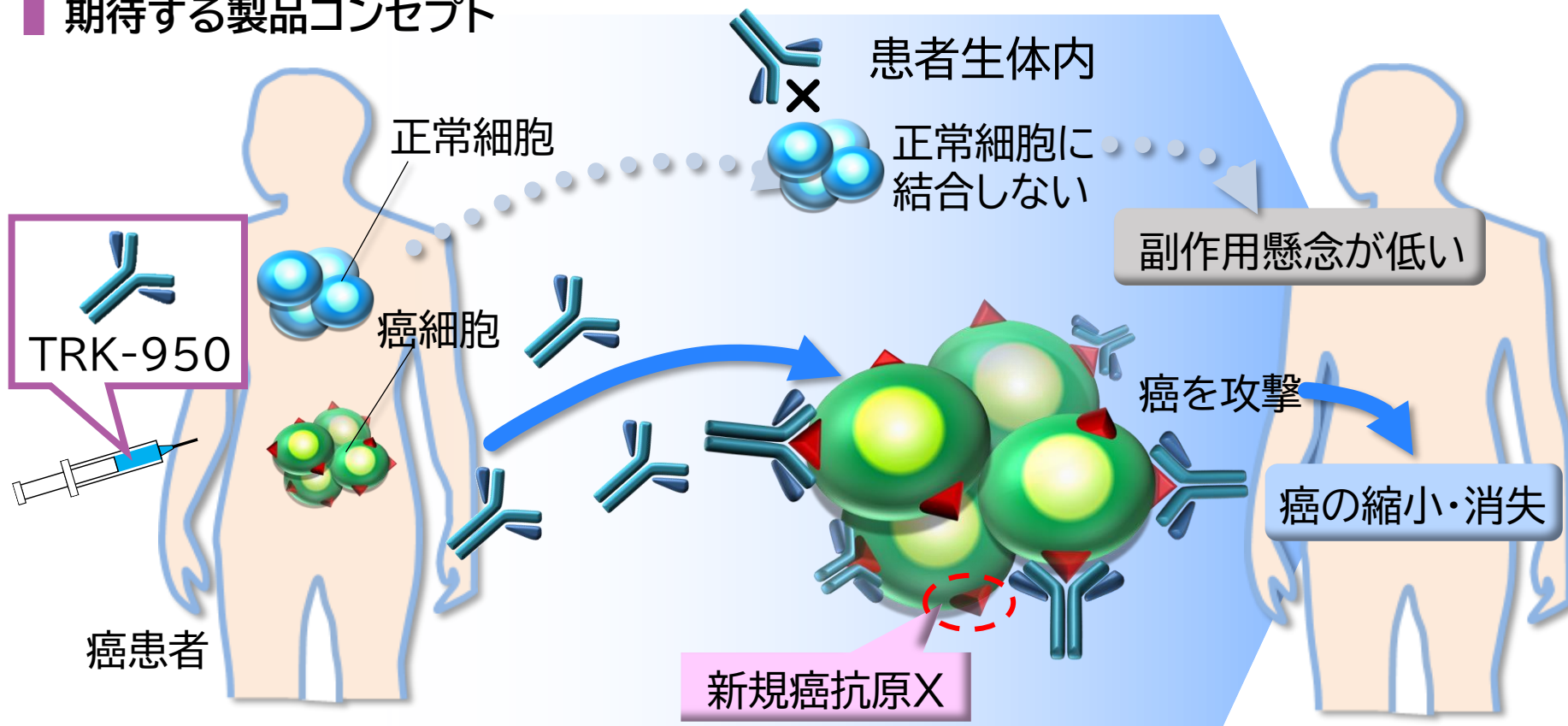
- ・ 医薬品・医療機器事業を展開
- ・ 開発中新薬の確実な上市と更なる新薬パイプラインの拡充
- ・ 高付加価値医療用具の開発・上市
- ・ バイオ・ナノテクノロジーの融合による、革新的バイオツールの創出

# 革新的がん抗体医薬品の開発: TRK-950

## TRK-950とは

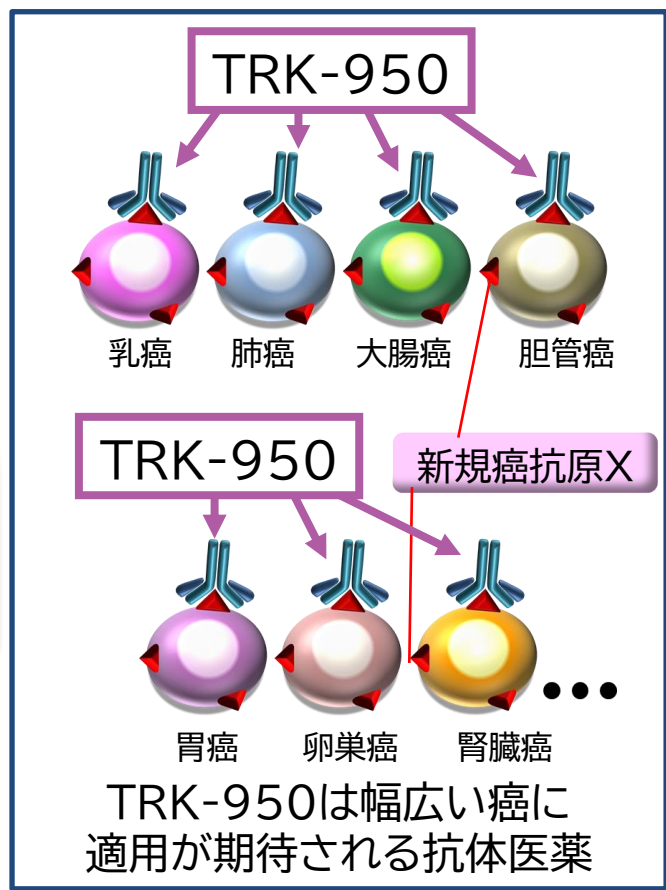
- ・東レが発見した新規癌抗原Xを標的とする抗体製剤
- ・臨床試験(第I相試験)にて、安全性に問題がないことを確認。胃がん患者を対象にした第II相臨床試験を開始

## 期待する製品コンセプト



目標: 2020年代の上市 (First-in-classのがん治療薬として)

## 当社技術の優位性

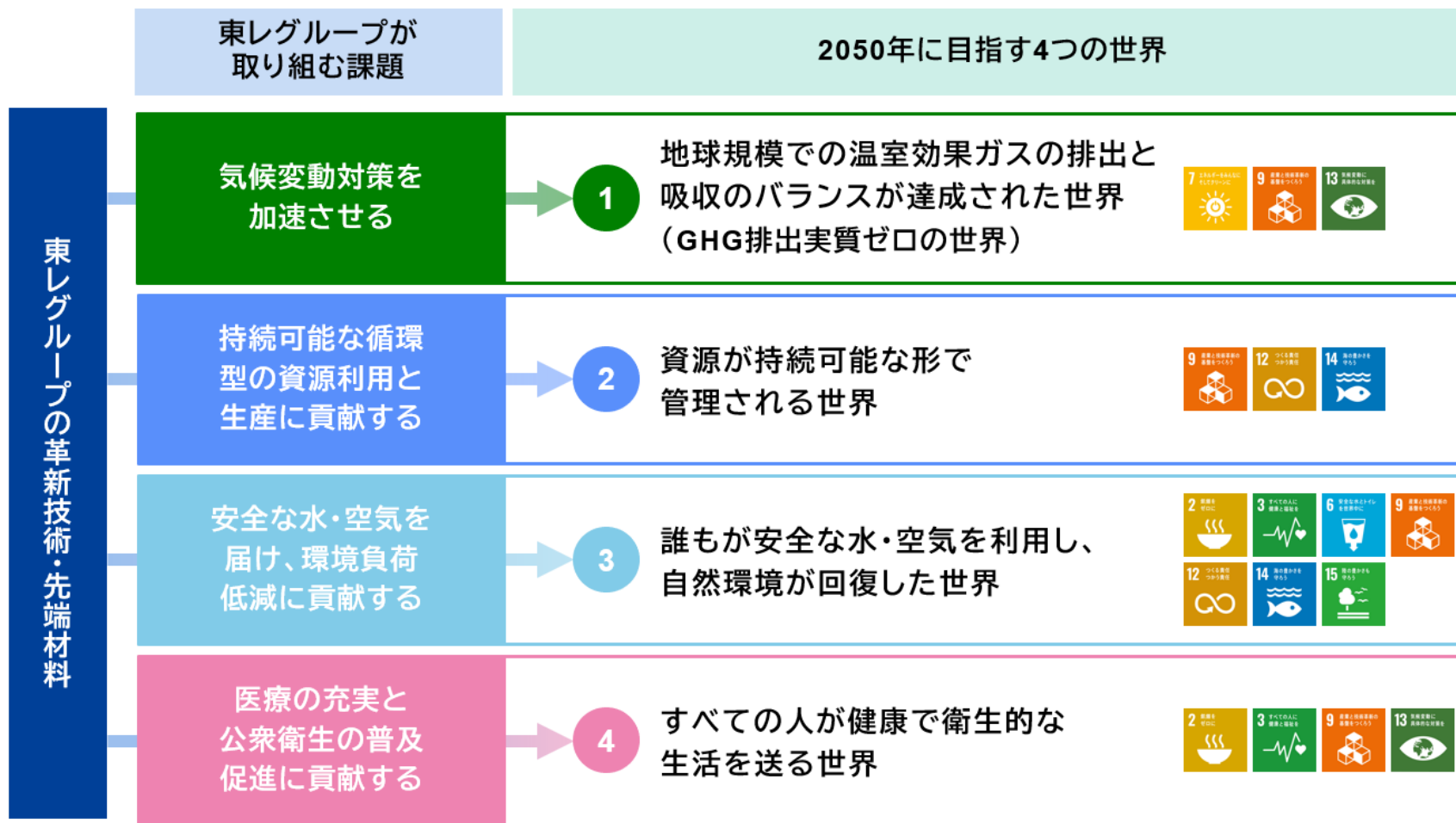


3

# 成長戦略 中期経営課題“プロジェクト AP-G 2025”

# 東レグループ サステナビリティ・ビジョン

世界が直面する「発展」と「持続可能性」の両立をめぐる地球規模の課題に対し、  
革新技术・先端材料の提供により、本質的なソリューションを提供します



東レグループの革新技术・先端材料

# 中期経営課題“プロジェクト AP-G 2025”「革新と強靱化の経営」

サステナビリティイノベーション事業とデジタルイノベーション事業を柱として「持続的かつ健全な成長」を実現

## “プロジェクト AP-G 2025” 5つの基本戦略

### 収益機会を捉える成長戦略

#### 1 持続的な成長の実現

サステナビリティイノベーション事業とデジタルイノベーション事業に経営資源を重点化

#### 2 価値創出力強化

有形・無形の資産の活用や社外との連携により収益力を最大化

#### 3 競争力強化

競争力の源泉である品質力の強化と組織の総合力を活かした組織横断的コストダウン活動を推進

### 成長を支える経営基盤強化

#### 4 「人を基本とする経営」の深化

人を育てる企業文化の継承と発展、個のキャリア形成の充実と働きがいの向上

#### 5 リスクマネジメントとグループガバナンスの強化

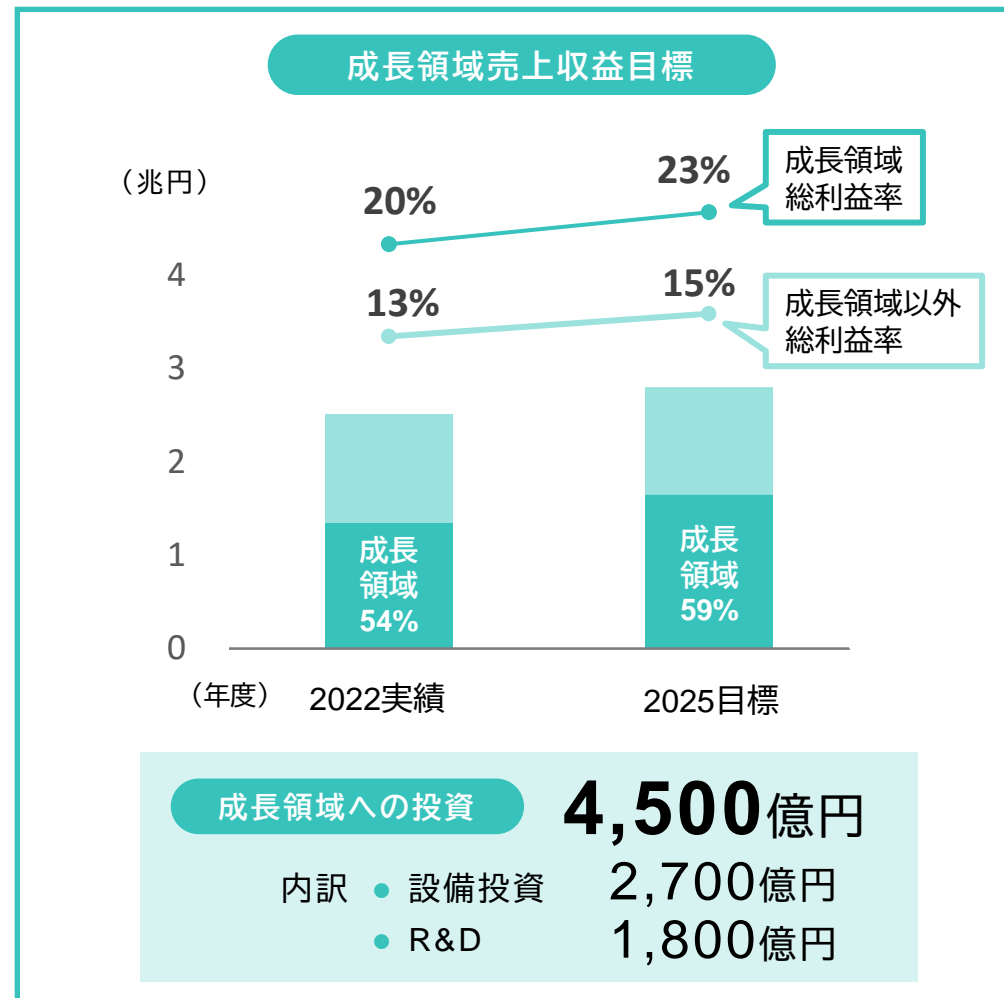
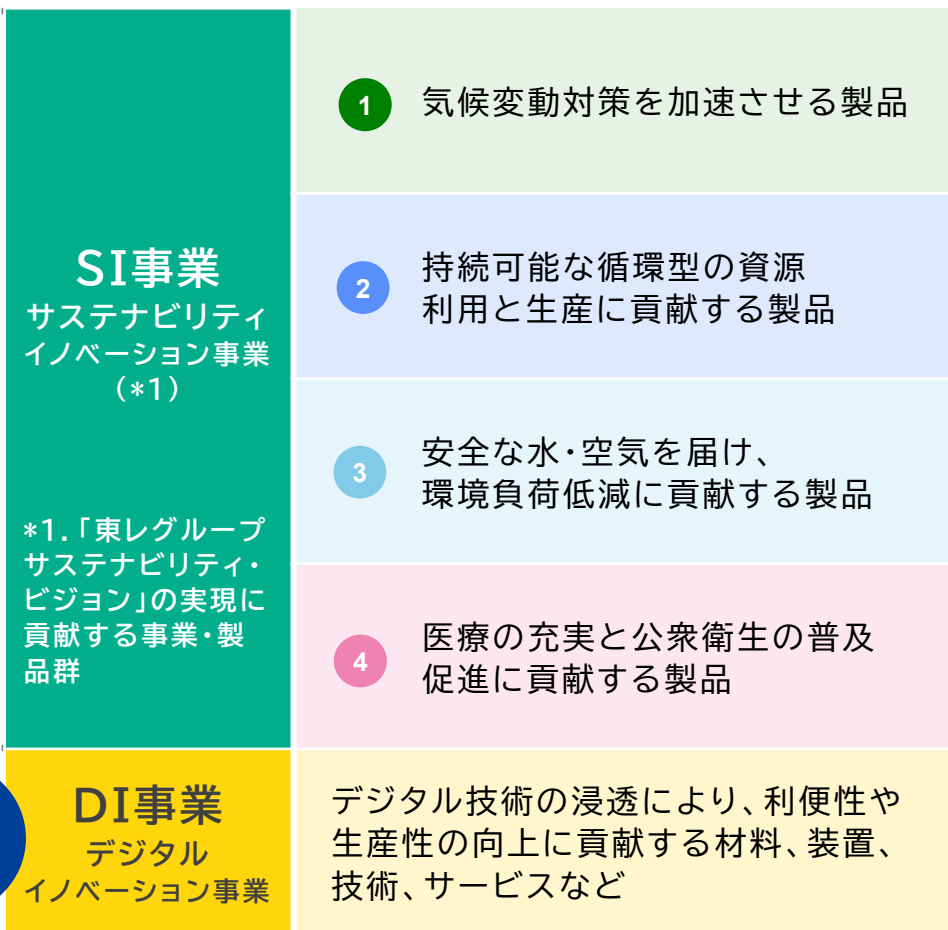
内部統制の強化とマネジメント力向上による健全な組織運営の実現

サステナビリティイノベーション事業(\*1)とデジタルイノベーション事業の売上収益を全体の6割程度まで拡大

## AP-G 2022の成長領域



## AP-G 2025の成長領域





## 目標

サステナビリティイノベーション事業の2025年度売上収益 1.6兆円

### サステナビリティイノベーション(SI)事業

医療と公衆衛生に貢献



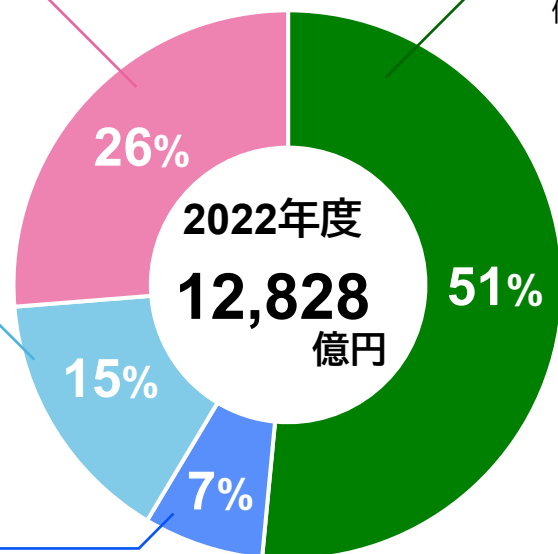
気候変動対策の加速



安全な水・空気の提供



資源循環への貢献



### SI事業の売上収益目標

(億円)

20,000

年率7.6%で  
拡大

16,000

12,828

10,000

0

(年度) 2022実績

2025目標

目標

半導体・ディスプレイ用途を主に2025年度売上収益 2,500億円

## デジタルイノベーション(DI)事業



エレクトロコーティング剤・実装材料



半導体製造・検査装置



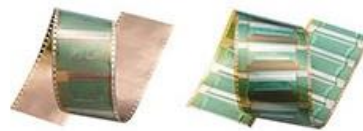
洗浄・剥離溶媒



超純水製造用RO膜



半導体モールド用  
離型フィルム



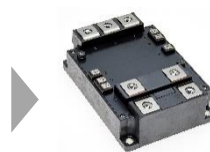
フレキシブル回路基板



ディスプレイ用材料

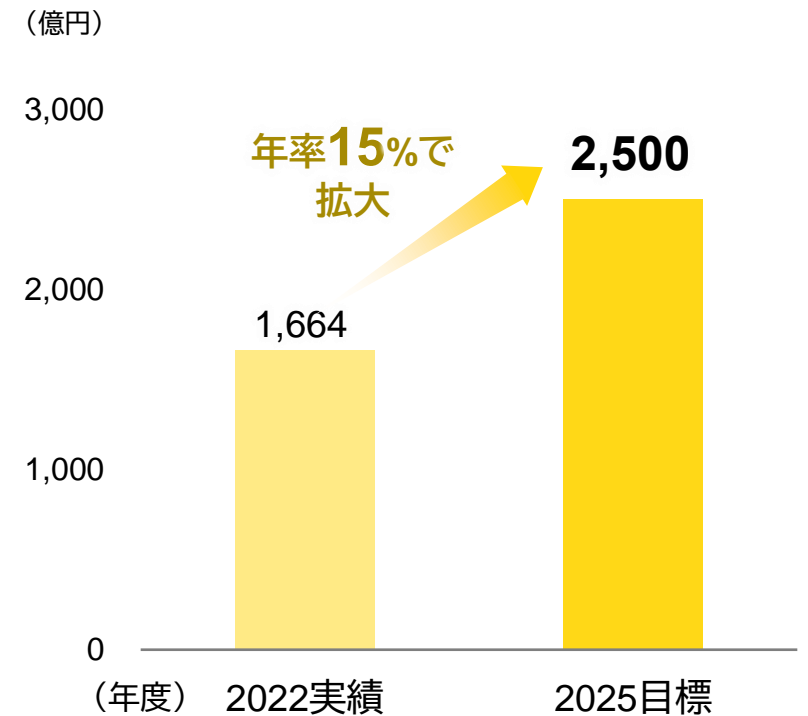


パワーモジュール用  
PPS樹脂



三菱電機様ご提供

## DI事業の売上収益目標



# 4

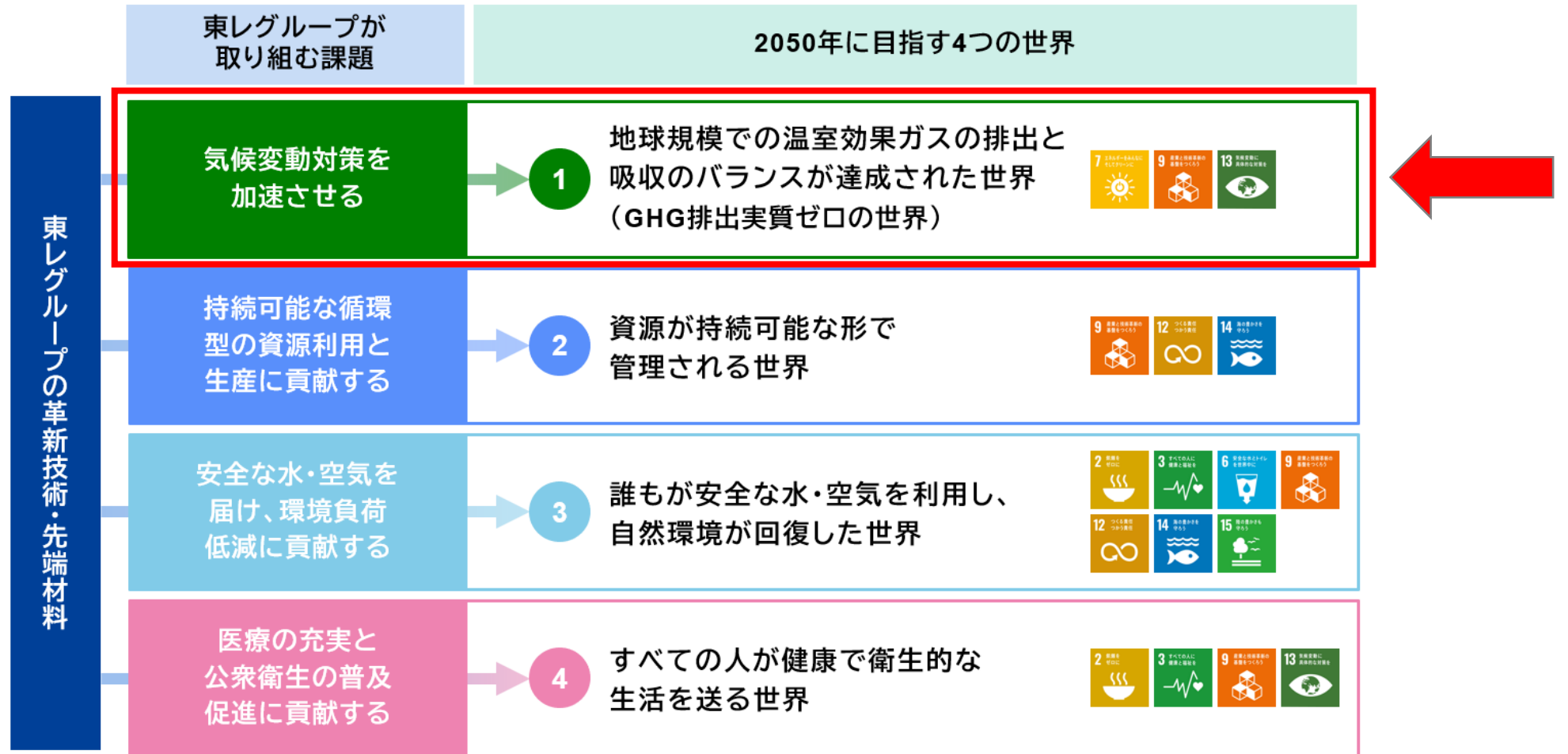
## サステナビリティへの取り組み

# — 気候変動に対する東レグループのソリューション（動画）



# 東レグループ サステナビリティ・ビジョン

世界が直面する「発展」と「持続可能性」の両立をめぐる地球規模の課題に対し、  
革新技术・先端材料の提供により、本質的なソリューションを提供します

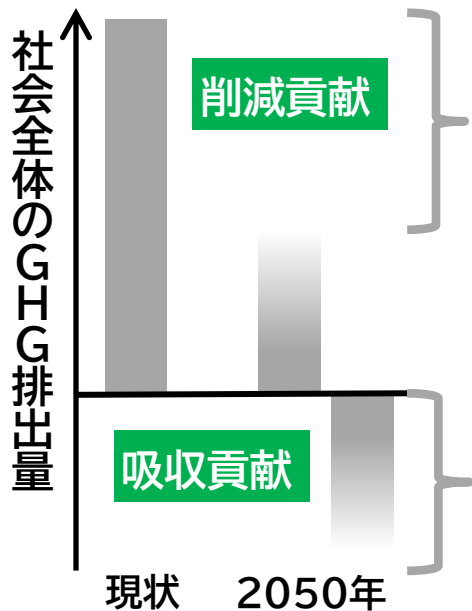


# カーボンニュートラルへの取り組み

サステナビリティイノベーション事業(SI事業)を通じて社会のGHG排出量削減に貢献します。SI事業拡大で実現した再エネ電力・水素・低カーボンフットプリント原料などを最大限利用し、自社のGHG排出量(\*)削減も推進していきます (\*:Scope1、2、3)

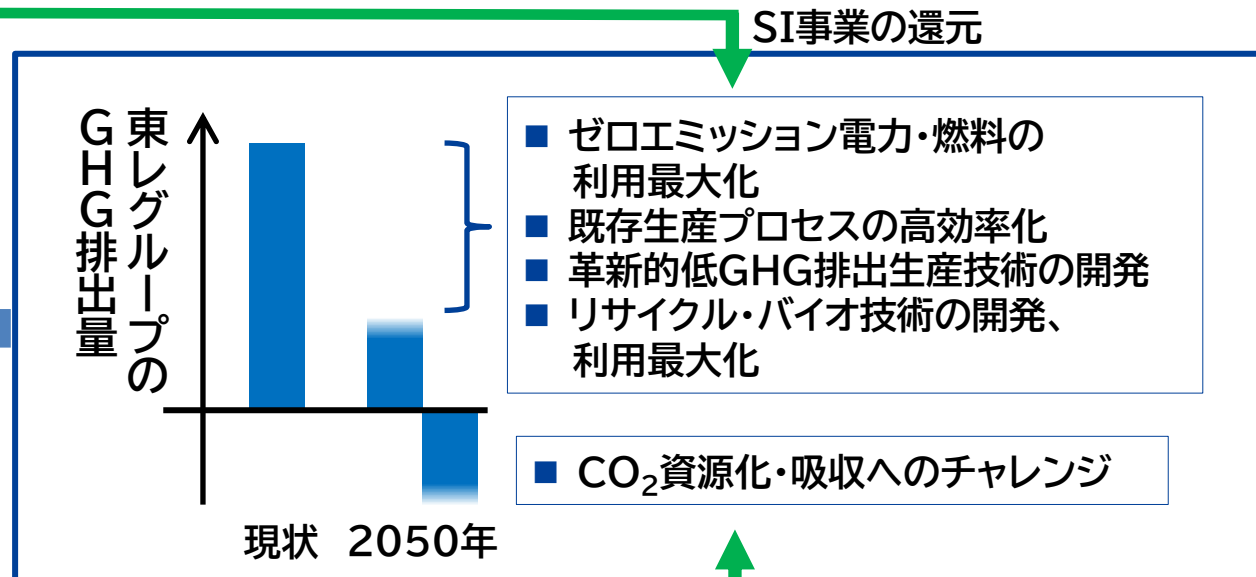
## 社会のカーボンニュートラル実現に貢献

### SI事業によるGHG削減貢献拡大



## 2050年に自社のカーボンニュートラルを実現

### 事業活動へのGHG削減技術導入



(対応するKPI)

	2030年度目標 [2013年度比]
サステナビリティイノベーション製品の供給	4.5倍
バリューチェーンへのCO <sub>2</sub> 削減貢献量	25倍

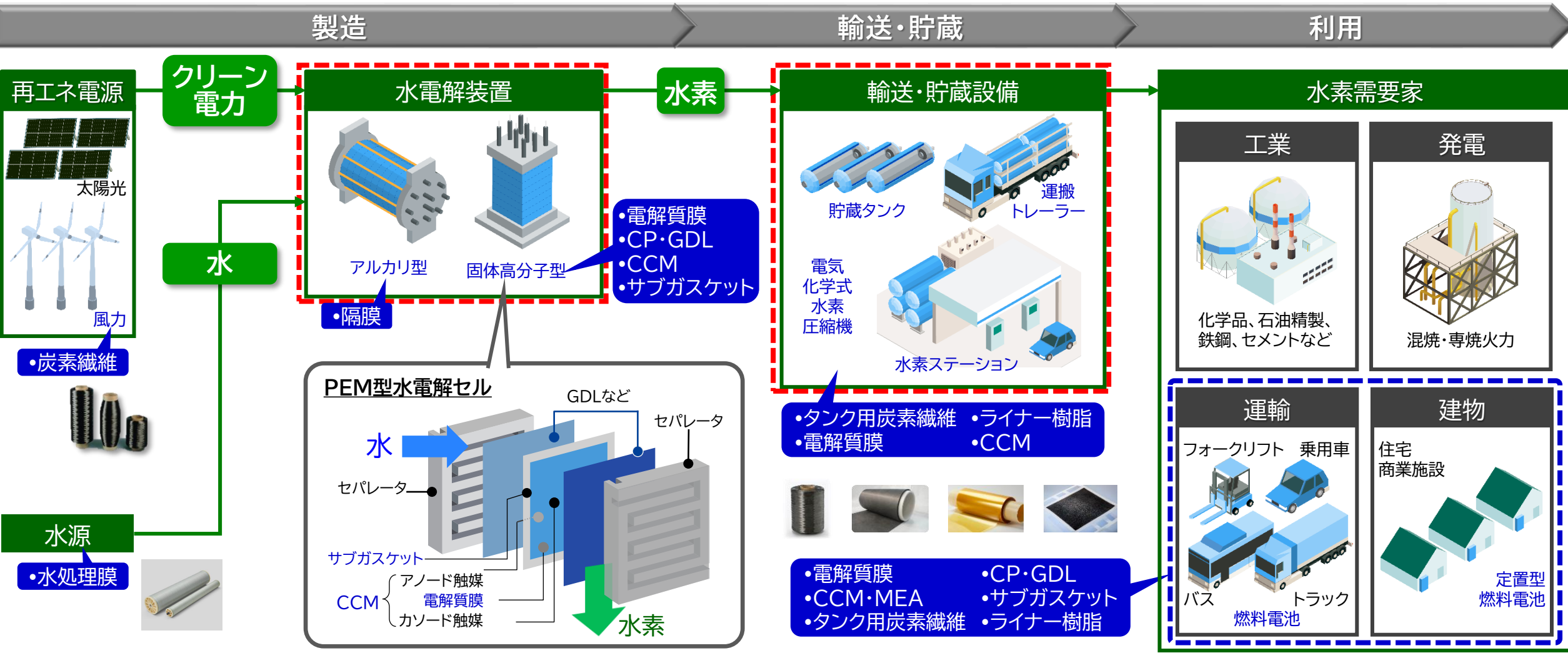
(対応するKPI)

	2030年度目標 [2013年度比]
生産活動によるGHG排出量	50%以上削減
東レグループ全体の売上収益原単位 日本国内の排出量	40%以上削減

# 東レグループの水素戦略

- CCM : 触媒付き電解質膜
- CP : カーボンペーパー
- GDL : ガス拡散層
- MEA : 膜電極接合体

東レグループの  
製品・開発品



水素のサプライチェーン全般に亘り 独自の先端素材を水素社会実現に向けたソリューションとして提供

# 採用事例及び価値の実証

## 燃料電池自動車向け 電極材料

MIRAI



CLARITY  
FUEL CELL



国内外の燃料電池自動車に、  
累計3万台以上の採用実績

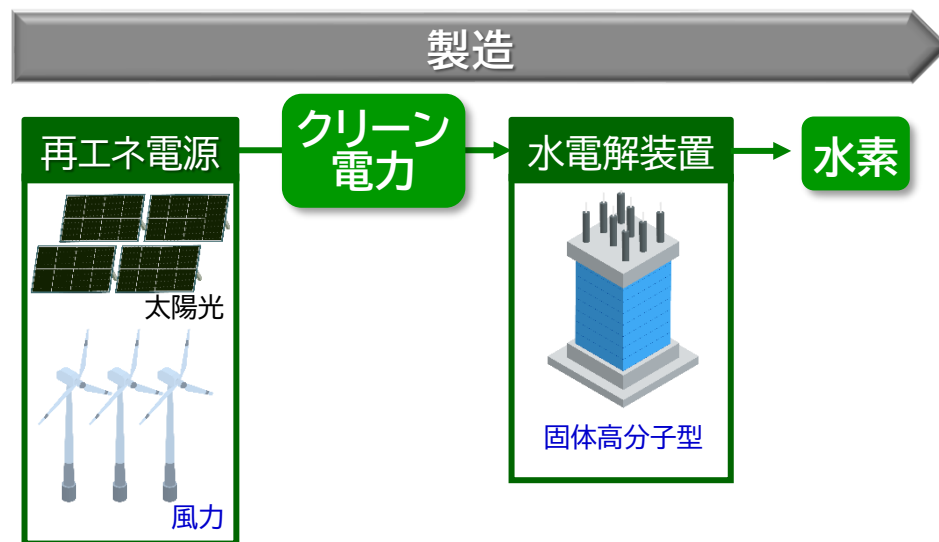
## 国内初のP2G事業会社「やまなし水素ジェンカンパニー（YHC）」



2022年2月設立

**YHC**

Yamanashi Hydrogen Company, Inc.



### <設立の狙い>

- ・「水電解による水素製造」の顧客へのソリューション提案
- ・将来の水素エネルギーサービスビジネスのフレームワーク構築
- ・最終オペレーションまで実施することで、常に最先端の技術、動向を把握する



# 戦略的連携、共同開発

シーメンス・エナジーと東レ パートナーシップを締結  
PEM型水電解を用いたグリーン水素製造により、カーボンニュートラル社会実現に貢献

SIEMENS  
energy

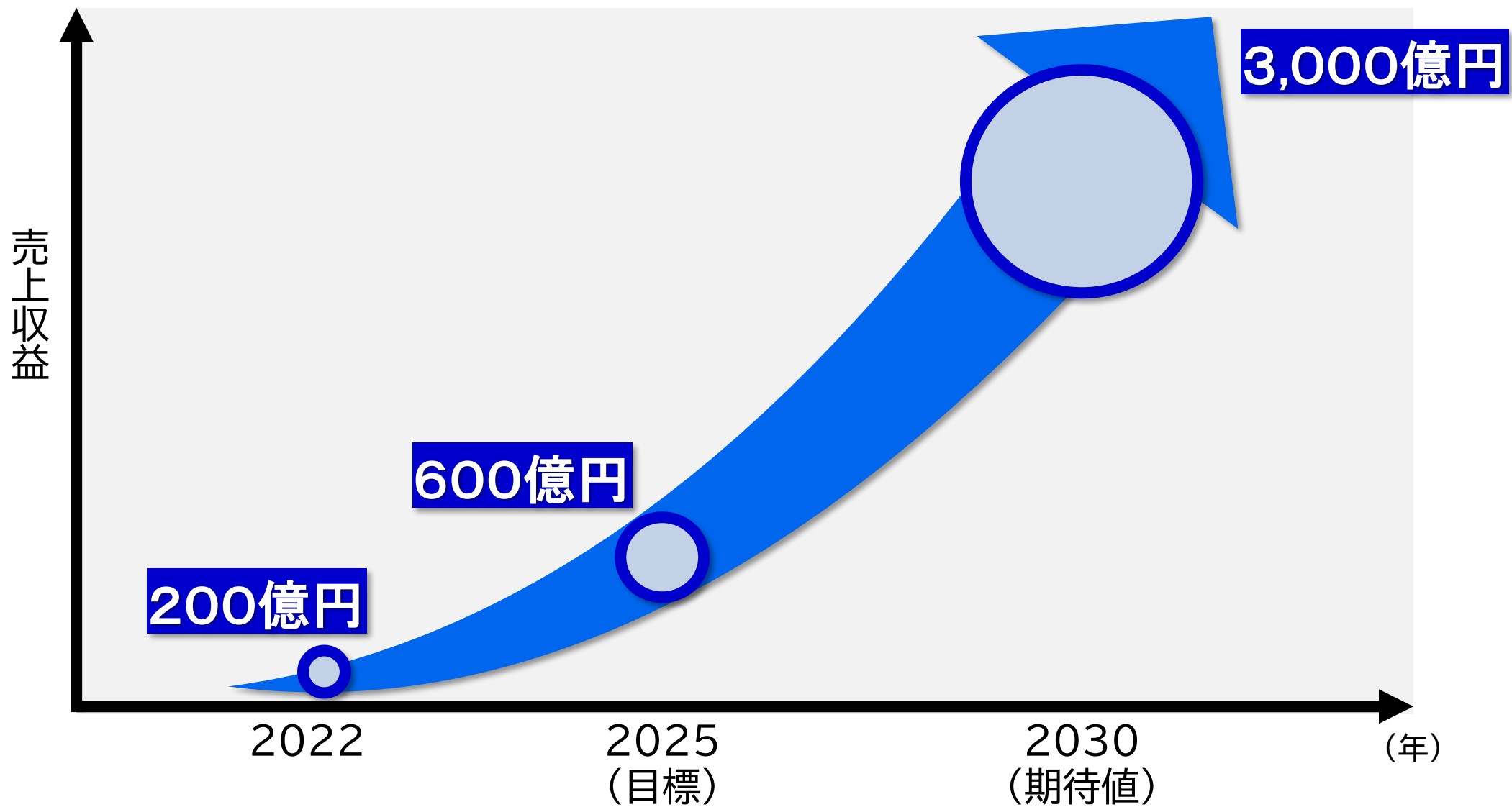


東レ「炭化水素系電解質膜」を実装した、  
革新的なシーメンス・エナジー水電解装置「Elyzer」を実現し、  
グローバルなグリーン水素サプライチェーンの構築を目指します。

**TORAY**  
Innovation by Chemistry

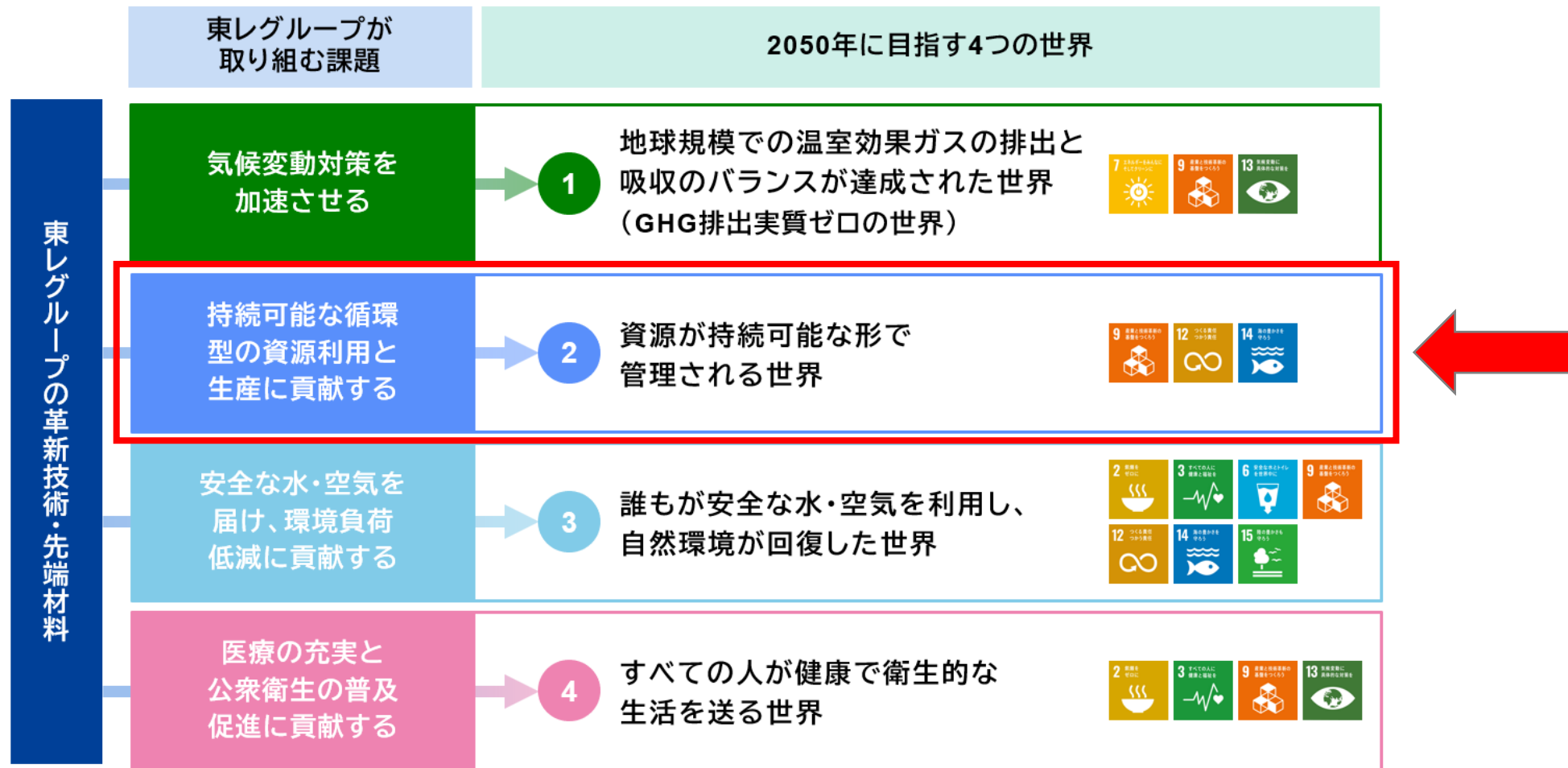
© Siemens Energy, Toray, 2021

# — 水素関連事業拡大への挑戦



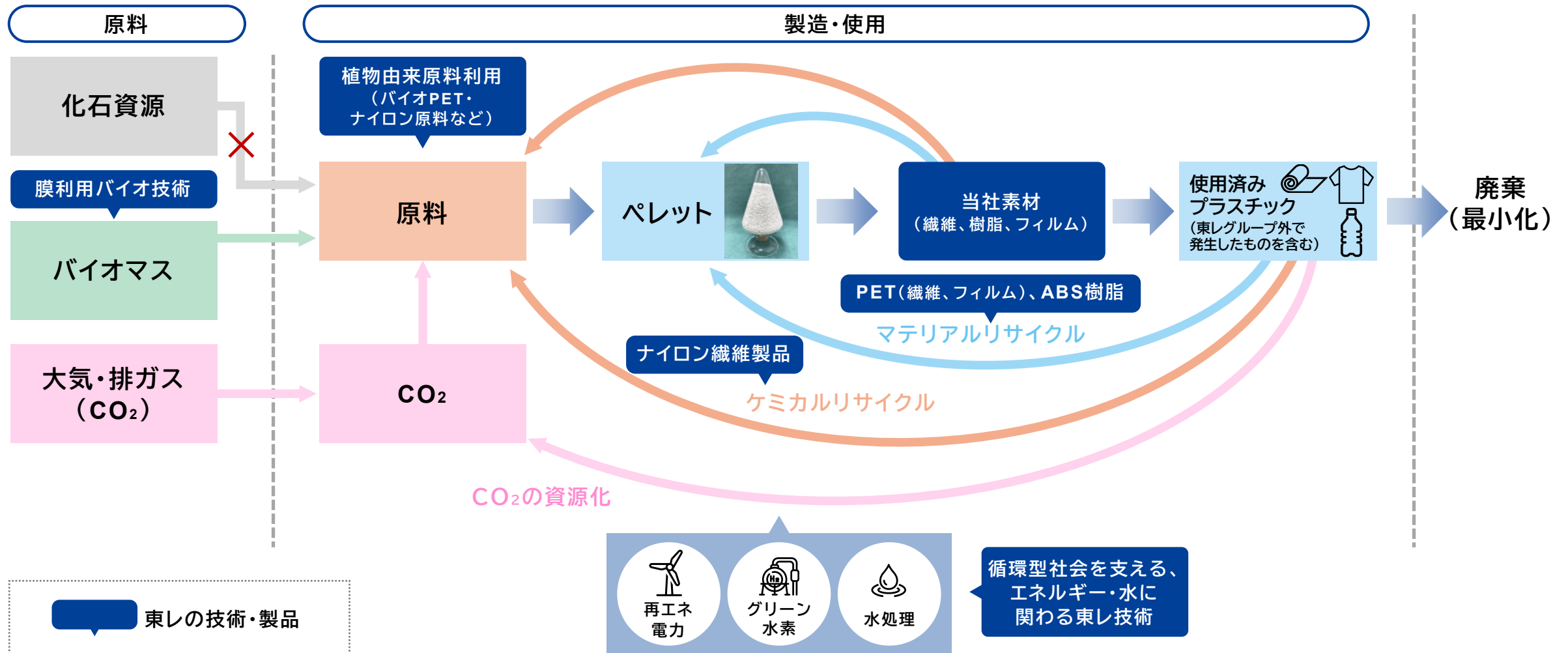
# 東レグループ サステナビリティ・ビジョン

世界が直面する「発展」と「持続可能性」の両立をめぐる地球規模の課題に対し、  
革新技术・先端材料の提供により、本質的なソリューションを提供します



# 循環型社会実現に向けた取り組み

プラスチック製品のバイオ化、マテリアル／ケミカルリサイクルへの取り組みを加速



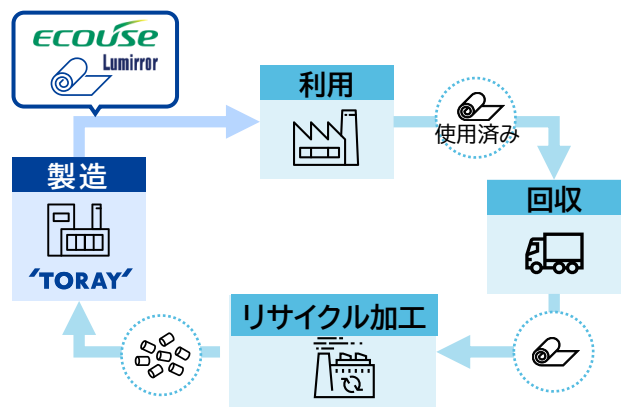
# 循環型の資源利用の事例

余剰資材や使用済み製品を回収・リサイクル加工し、再生原料化する独自のリサイクルシステムを確立。  
システムの発展・リサイクル技術の進化とバイオマス由来材料への転換により循環型の資源利用と生産に貢献し、  
製品・事業の価値を向上

## リサイクル

### リサイクルPETフィルム 「Ecouse®ルミラー®」

お客様から回収したフィルムを原料として使用した循環型リサイクルフィルム。製造過程で排出するCO<sub>2</sub>を大幅に削減



### PETボトルリサイクル繊維「&+®」

- 使用済みPETボトルを回収し、リサイクル処理を施して原料として活用。高品質高機能な繊維に再生
- 東レがリサイクルしたことを証明可能
- 異業種連携を通じた商品化を推進



## バイオマス

### バイオマス由来材料への転換

- バイオマス由来材料へ転換し、化石燃料からの脱却・GHG排出量削減に貢献

部分バイオPET繊維 (2013年度～) 量産販売  
粗原料: 非食用サトウキビ廃蜜など  
Ultrasuede®PX

100%バイオPET繊維 (2017年度～)  
粗原料: サトウキビなど 試験販売

100%バイオナイロン510繊維 (2022年度～)  
粗原料: 非食用ヒマなど 試験販売  
エコディア®N510

◆ 2030年度SI事業の「持続可能な循環型の資源利用と生産に貢献する製品」の売上収益目標

4,000億円

◆ 2030年度基幹ポリマーの再生資源等使用比率(\*1)目標

\*1. PET、ナイロン各ポリマーに占めるリサイクル、バイオマス由来、CO<sub>2</sub>利用の原料の使用比率

20%

# — & +<sup>®</sup>(アンドプラス)について (動画)



# 2025年度 サステナビリティ目標

相対比はいずれも2013年度比

	2013年度実績 (基準年度) (日本基準)	2022年度実績 (IFRS)	2025年度目標 (IFRS)
サステナビリティイノベーション事業の売上収益※1	5,624億円	12,828億円 (2.3倍)	16,000億円 (2.8倍)
バリューチェーンへのCO <sub>2</sub> 削減貢献量※2	0.4億トン	9.5倍	15.0倍
水処理貢献量※3	2,723万トン/日	2.5倍	2.9倍
生産活動によるGHG排出量の売上高・売上収益原単位※4	337トン/億円	35%削減※6	40%削減
日本国内のGHG排出量※5	245万トン	21%削減※6	20%削減
生産活動による用水使用量の売上高・売上収益原単位	15,200トン/億円	32%削減※6	40%削減

※1. ①気候変動対策を加速させる製品、②持続可能な循環型の資源利用と生産に貢献する製品、③安全な水・空気を届け、環境負荷低減に貢献する製品、④医療の充実と公衆衛生の普及促進に貢献する製品

※2. 製品のバリューチェーンを通じたライフサイクル全体でのCO<sub>2</sub>排出量削減効果を、日本化学工業協会、ICCA(国際化学工業協会協議会)およびWBCSD(持続可能な開発のための経済人会議)の化学セクターのガイドラインに従い、東レが独自に算出。

※3. 水処理膜により新たに創出される年間水処理量。各種水処理膜(RO/UF/MBR)毎の1日当たりの造水可能量に売上本数を乗じて算出。

※4. 世界各国における再生可能エネルギー等のゼロエミッション電源比率の上昇に合わせて、2030年度に同等以上のゼロエミッション電源導入を目指す。

※5. 地球温暖化対策推進法に基づく日本政府の総合計画(2021年10月22日閣議決定)における産業部門割当(絶対量マイナス38%)以上の削減を目指す。

※6. 基準年度である2013年度の値は、2014年度以降に東レグループに加わった会社分を含めて算出。

5

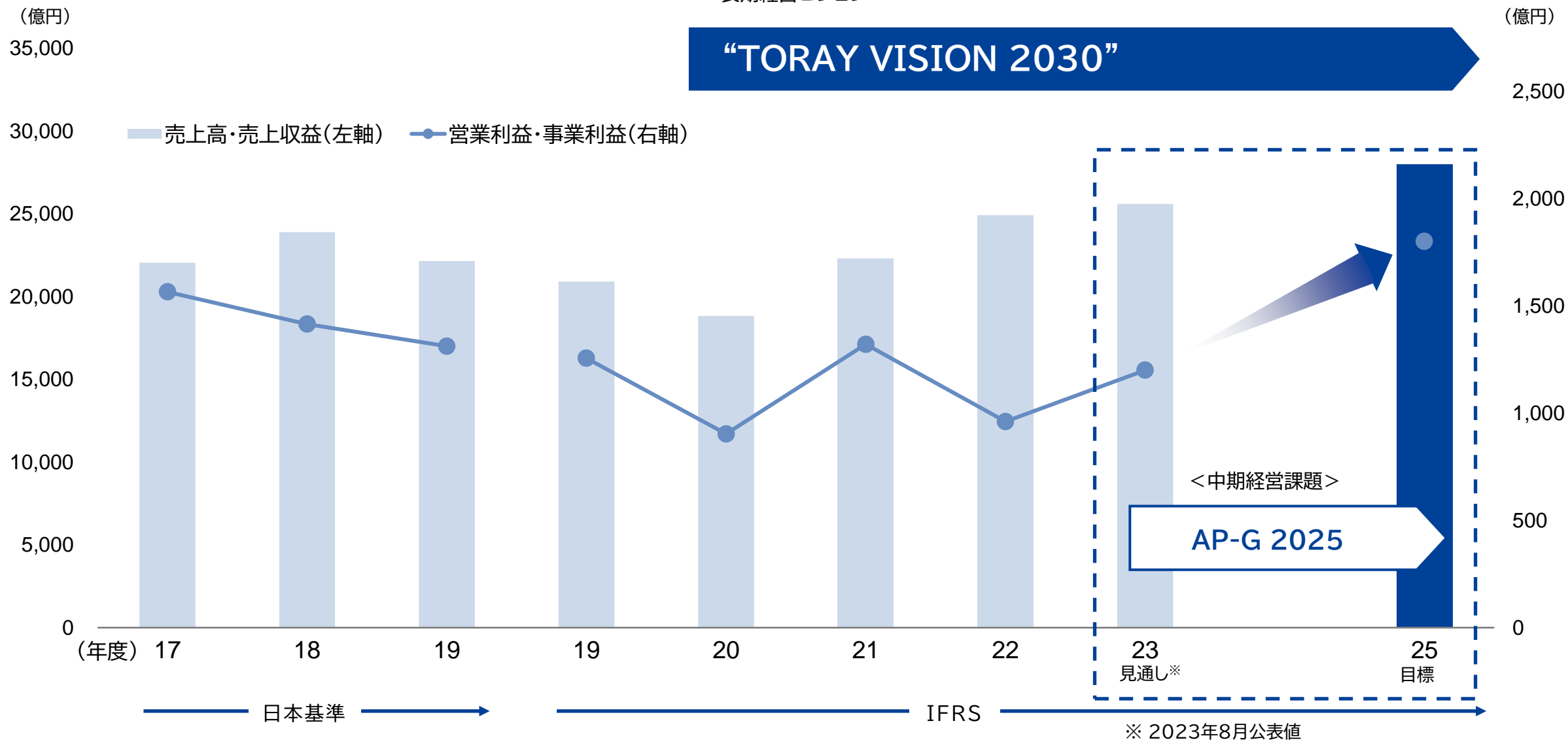
# 業績



# 売上高・売上収益、営業利益率・事業利益率の推移

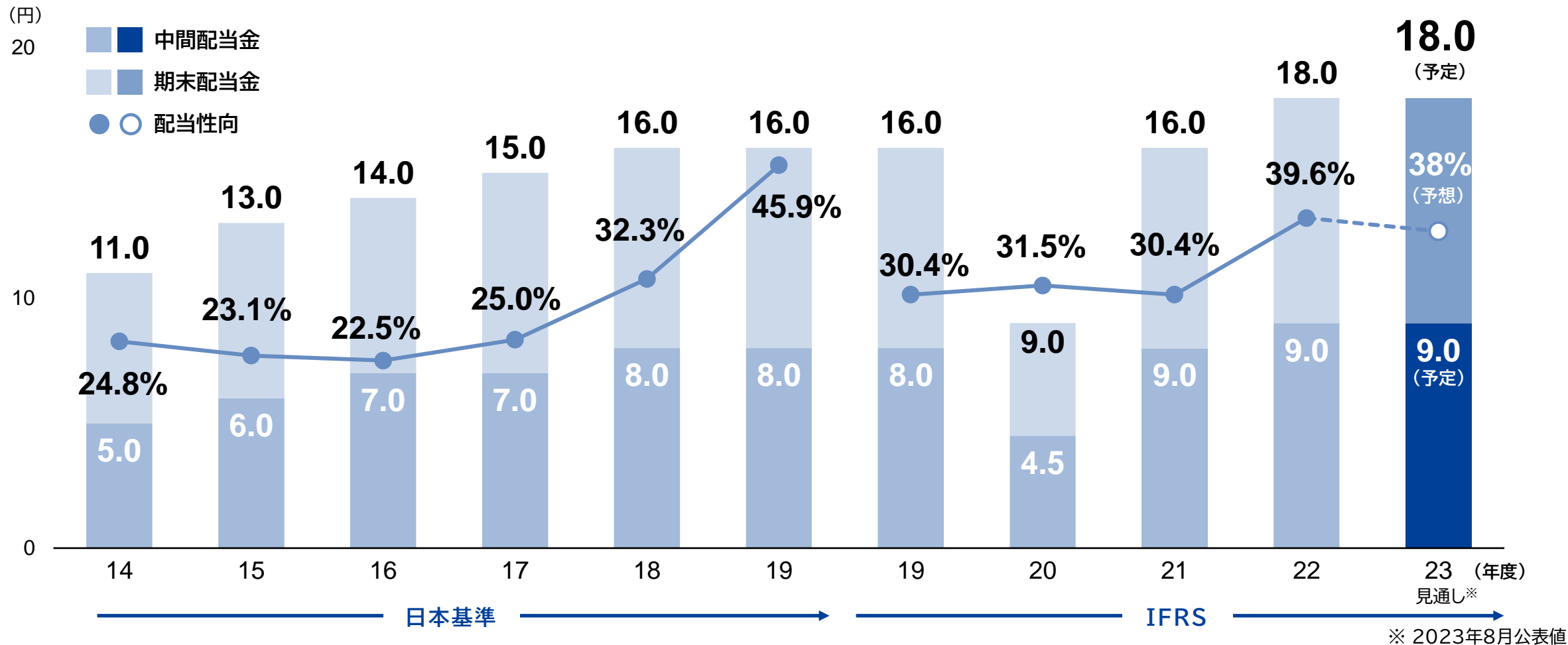
<長期経営ビジョン>

“TORAY VISION 2030”



# 株主還元

AP-G 2025では、安定的かつ継続的配当の維持を基本として、利益成長による配当額増加を目指し、配当性向は30%以上とします

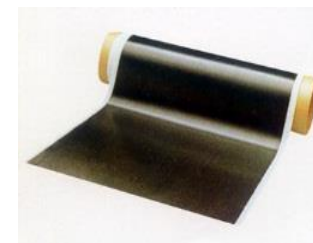
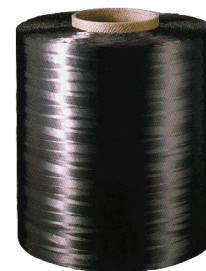
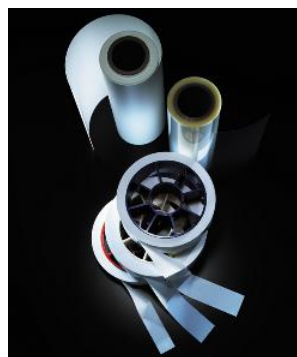


6

終わりに

# — わたしたちは新しい価値の創造を通じて社会に貢献します

素材メーカーである東レグループは、成長している分野へ求められるものを 継続的に創出するにとどまらず、サービスの付加やソリューションを提供することで、社会的課題の解決に重要な役割を果たす「真のものづくり」を追求し、社会に貢献する



\*「ヒートテック®」は株式会社ファーストリテイリングの登録商標です

7

# 参考情報

- 本資料は、東レグループの事業内容等に関する情報の提供を目的とするものであり、当社株式への投資を勧誘するものではありません。
- 本資料に記載した業績予想、見通し及び事業計画等は、資料作成時点において入手可能な情報に基づく東レグループによる仮定及び判断に基づくものであり、その正確性および完全性を保証し、また約束するものではありません。
- 業績予想、見通し及び事業計画等は、今後予告なく変更されることがあります。

## 東レグループに関する情報について

- 東レグループに関する、プレスリリース、製品・サービス、研究・技術開発、CSR、株主・投資家情報、会社情報等については、ウェブサイトをご覧ください。
- 株主・投資家情報のコーナーでは、「個人投資家の皆様へ」というコーナーも設けており、東レグループの経営戦略、事業内容等について、より分かりやすくご説明しています。

- 東レグループウェブサイト:



## IR配信サービスのご紹介

- 「株主・投資家情報」→「IRメール」からメールアドレスをご登録ください。適時開示情報など最新の東レ関連IR情報を配信します。



### アイコンのご説明

- をクリックいただくと、関連するホームページに遷移します
- をクリックいただくと、関連する動画を視聴いただけます



# 水素IRセミナー、事業別説明会などの動画について（ご参考）



上記ホームページの [スライド付き動画](#) **VIDEO** をクリック頂くと、動画をご確認いただけます

2023年6月:事業別説明会(IRデー)  
2023年9月:水素IRセミナー  
を開催しており、それぞれの動画を  
当社ホームページで掲載しております

**TORAY**  
Innovation by Chemistry

お問い合わせ

企業情報 サステナビリティ 製品・サービス 研究・技術開発 株主・投資家情報 採用情報 ニュースルーム

HOME > 株主・投資家情報

## 株主・投資家情報

### IRセミナー「水素社会実現に向けた東レグループの取り組み」(2023年9月5日)

東レグループの水素関連事業への取り組み (PDF:3.98MB) **PDF** [スライド付き動画 VIDEO](#)

複合材料事業本部の取り組み (PDF:2.08MB) **PDF** [スライド付き動画 VIDEO](#)

HS事業部門の取り組み (PDF:2.39MB) **PDF** [スライド付き動画 VIDEO](#)

---

### Toray IR Day (2023年6月9日)

#### 中期経営課題“プロジェクト AP-G 2025” 事業説明会

繊維事業(PDF: 3.18MB) **PDF** [スライド付き動画 VIDEO](#)

樹脂・ケミカル事業(PDF: 3.91MB) **PDF** [スライド付き動画 VIDEO](#)

フィルム事業(PDF: 2.46MB) **PDF** [スライド付き動画 VIDEO](#)

炭素繊維複合材料事業(PDF: 1.65MB) **PDF** [スライド付き動画 VIDEO](#)

---

### Toray IR Day (2023年6月5日)

#### 中期経営課題“プロジェクト AP-G 2025” 事業説明会

東レの価値創出力強化(PDF: 2.18MB) **PDF** [スライド付き動画 VIDEO](#)

東レの研究・技術開発戦略(PDF: 3.53MB) **PDF** [スライド付き動画 VIDEO](#)

医薬・医療事業(PDF: 3.45MB) **PDF** [スライド付き動画 VIDEO](#)

水処理事業(PDF: 3.23MB) **PDF** [スライド付き動画 VIDEO](#)

電子情報材料事業(PDF: 2.70MB) **PDF** [スライド付き動画 VIDEO](#)

# 2023年度 連結業績見通し(2023年8月7日公表内容)

## 業績見通しの前提

世界経済は、緩やかに回復していくものの、欧米でのインフレ・高金利が個人消費や設備投資の意欲を低下させることなど、回復ペースは緩やかなものに留まると見られる。中国は、外需の減速や不動産市場の低迷の影響から経済正常化への過程は緩やかとなる見通し。国内経済も緩やかな回復が見込まれる。ただし、欧米での持続するインフレに対処するための金融引き締めの継続が世界経済の下振れ材料として挙げられる。

		億円			
		22年度 実績	23年度 見通し	増減	
売上収益	上期	12,618	12,000	-618	(-4.9%)
	下期	12,275	13,600	+1,325	(+10.8%)
	通期	24,893	25,600	+707	(+2.8%)
事業利益	上期	544	450	-94	(-17.3%)
	下期	416	750	+334	(+80.3%)
	通期	960	1,200	+240	(+25.0%)
親会社の所有者に 帰属する当期利益	上期	591	290	-301	(-50.9%)
	下期	137	470	+333	(+242.8%)
	通期	728	760	+32	(+4.4%)
基本的1株当たり 当期利益	上期	36.92 円	18.11 円	為替レート的前提 135円/US\$	
	下期	8.56 円	29.34 円		
	通期	45.49 円	47.45 円		
1株当たり配当金	上期	9.00 円	9.00 円		
	下期	9.00 円	9.00 円		
	通期	18.00 円	18.00 円		
配当性向	通期	40%	38%		



# セグメント別連結業績見通し(2023年8月7日公表内容)

億円

		22年度 実績			23年度 見通し			増減		
		上期	下期	通期	上期	下期	通期	上期	下期	通期
売上収益	繊維	5,090	4,902	9,992	4,670	5,090	9,760	-420	+188	-232
	機能化成品	4,733	4,361	9,094	4,410	5,100	9,510	-323	+739	+416
	炭素繊維複合材料	1,400	1,417	2,817	1,430	1,650	3,080	+30	+233	+263
	環境・エンジニアリング	1,061	1,228	2,288	1,170	1,360	2,530	+109	+132	+242
	ライセンス	259	279	538	250	300	550	-9	+21	+12
	その他	75	89	164	70	100	170	-5	+11	+6
	合計	12,618	12,275	24,893	12,000	13,600	25,600	-618	+1,325	+707
事業利益	繊維	239	274	512	235	305	540	-4	+31	+28
	機能化成品	251	53	304	140	340	480	-111	+287	+176
	炭素繊維複合材料	56	103	159	70	130	200	+14	+27	+41
	環境・エンジニアリング	83	115	197	110	130	240	+27	+15	+43
	ライセンス	3	▲ 2	2	▲ 5	5	0	-8	+7	-2
	その他	10	15	25	10	15	25	-0	+0	-0
	調整額	▲ 98	▲ 141	▲ 239	▲ 110	▲ 175	▲ 285	-12	-34	-46
	合計	544	416	960	450	750	1,200	-94	+334	+240

本資料中の業績見通し及び事業計画についての記述は、現時点における将来の経済環境予想等の仮定に基づいています。

本資料において当社の将来の業績を保証するものではありません。

**'TORAY'**  
**Innovation by Chemistry**